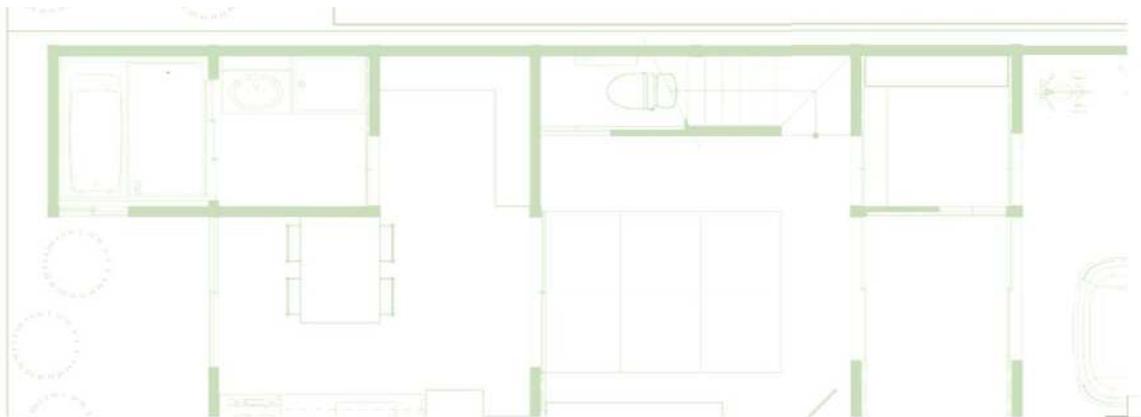


木製防火雨戸の設計ガイドブック



目次

はじめに	1
火事に負けない木造建築	2
京町家（2階建て以下）の各部防耐火性能	3
第1章 大臣認定の概要と使い方	
1-1. 大臣認定の概要	5
1-2. 木製防火雨戸の運用方法	9
1-3. 木製防火雨戸製作・施工に当たっての諸条件等について	11
1-4. 木製防火雨戸の使用上の注意点（メンテナンス手法と経年変化対応）	12
開発に携わった立場からのアドバイス	13
第2章 大臣認定の詳細	
2-1. 認定書	15
2-2. 認定書 別添（認定仕様）抜粋	16
付録	
・ 木製防火雨戸の製作・施工チェックシート （三本溝用／二本溝用）	付録 1
・ 木製防火雨戸の維持管理チェックシート （三本溝・二本溝共通）	付録 2
・ 性能評価試験の記録写真	付録 3
・ 関連法令（土壁・軒裏の防火構造）等	付録 4
・ 窓口案内	付録 5

はじめに

京都市内には、京町家等の歴史的建築物が数多く存在し、京都固有の趣ある町並みを象徴するものであるとともに、魅力あるまちづくりに欠くことのできない市民の貴重な財産です。

近年、ストック重視型の時代への転換が進み、京町家等の歴史的建築物の活用ニーズが高まる中で、建築物の安心、安全を確保したうえで活用し、良好な状態で次世代へ継承していく方策が求められています。

その一方で、こうした歴史的建築物は、建築基準法（以下「法」といいます。）の規定に適合していない部分も多く、大規模修繕や増築、用途変更等を行う際には、現行法への適合が求められ、建物の歴史的価値のある意匠形態等を残すことが困難な場合があります。

実例として、京町家の多くは、準防火地域に存しているため、外壁の開口部にアルミサッシ等の防火設備の設置が必要となり、京町家の趣ある意匠形態を保存しながら活用することが困難な状況にありました。

そこで、平成30年度から、産（京都府建築工業協同組合等）、学（早稲田大学等）、官（京都市等）が連携を取りながら、京町家の意匠の保存・復原と火災に対する安全性の両立が可能となる「木製防火雨戸」の研究開発を行い、その結果、令和3年4月に、法施行令第137条の10第四号に基づく20分間防火設備として、国土交通省大臣の認定を取得しました。

この認定の取得によって、京町家の既存の木製建具を活かしたまま、外壁開口部の防火性能の向上が可能となったほか、新築の建物にも使用可能となりました。

「木製防火雨戸」が所定の性能を発揮するためには、設計者、施工者等が認定の仕様を正しく理解し、確実な施工を行うこと、また、設置後は、所有者、使用者等によって適切に維持管理されることが大切です。

本ガイドブックは、「木製防火雨戸」を広く活用いただけるよう、「木製防火雨戸」の概要や設計に取り込むためのポイントなどをまとめたものです。

京町家等の歴史的建築物の設計に携わる多くの方々にとって、有用なガイドブックとなれば幸いです。

末尾になりましたが、発刊に当たりまして、安井昇先生、早稲田大学長谷見研究室をはじめ、多くの関係機関、団体の皆様の御指導と御協力をいただきましたことを、改めて御礼申し上げます。

令和3年12月
京都市都市計画局建築指導部建築指導課
京都府建築工業協同組合

火事に負けない木造建築

京都には、今でも寺社仏閣や京町家などの伝統的な木造建築が数多く建ち並び、言わずと知れた日本の古都として伝統的な町並みが現存します。一方、そういった木造建築が密集する市街地では、必ずしも防火上安全であるとは言えません。

例えば、新潟県の糸魚川市大規模火災（2016年）などのように、市街地で火災が発生したとき、建物単位や区画単位にて延焼を防止する措置がなければ、火災は広範囲に広がってしまいます。特に、密接する建物では、開口部や軒先が経路となり延焼します。そのため、伝統的な町並みや京町家等の趣きを残しつつも安心して使い続けていくためには工夫が必要です。

法では、準防火地域内で2階建ての木造建築に増築等を行う場合は、火災時の延焼を防止する措置として、建物の周囲において発生する火災に対し、延焼のおそれのある部分（1階は3m以下、2階は5m以下）の外壁及び軒裏を防火構造とし、さらに、外壁の開口部を防火設備とすることが求められます。既存の京町家を防火改修する場合は、京町家の土塗壁、軒裏及び外壁開口部に少し工夫や補強を行い、建物の外周部（外壁・軒裏・開口部）を“燃え抜けにくい”構造にすることで、意匠を損なうことなく延焼防止性能を向上させることが可能となり、火事に負けない京町家や街区が実現します。

本ガイドブックで紹介する木製防火雨戸は、防火設備のひとつとして開発したもので、この雨戸を使用することにより、外壁の開口部からの延焼を防ぐことができます。

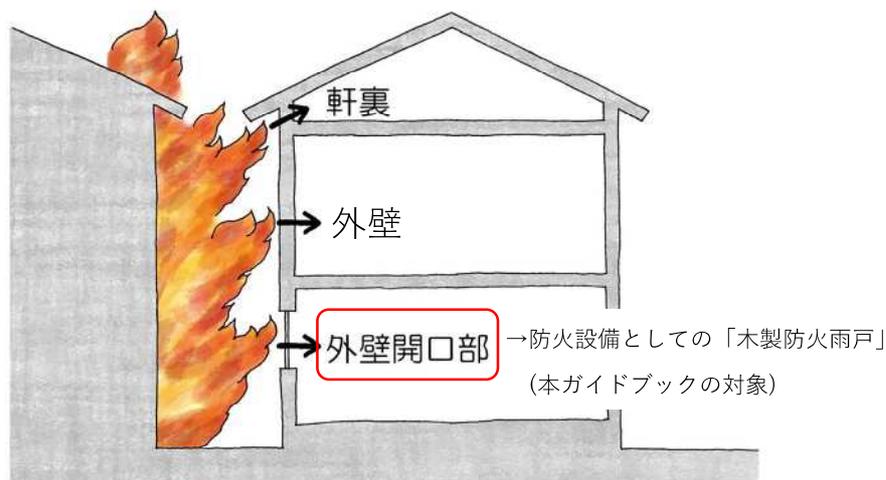


図 隣棟火災からの延焼経路

京町家（2階建て以下）の各部防耐火性能

既存の京町家では、一般的に外壁は竹木舞を下地とした土塗壁、軒裏は垂木・野地板・面戸板が木材あらかわし仕上げとなっています。火事に負けない木造建築にするためには、建物の外周部の延焼防止性能を確保することが重要です。ここでは、建物の外周部に求められる性能と京町家での対応の一例を示します。

■外壁

防火構造の外壁は、建物の周囲において発生する火災に対し、火災発生後30分間の①遮熱性（屋内へ熱を伝えない）、②非損傷性（変形・破壊などが生じない）が求められます。京町家の外壁は、竹木舞下地の土塗壁（雨がかかる部分はその表面に板張り）で、40mm厚以上塗られることが多く、その外壁は30分を超える延焼防止性能を確保することが可能です。

■軒裏

防火構造の軒裏は、建物の周囲において発生する火災に対し、火災発生後30分間の①遮熱性（屋内へ熱を伝えない）が求められます。京町家の軒裏は、垂木・野地板・面戸板が木材あらかわし仕上げであり、野地板・面戸板がそれぞれ9～15mm程度の場合が多く、容易に小屋裏へ延焼する可能性があります。しかし、平成16年（2004年）に、厚さ30mm以上の野地板及び厚さ45mmの面戸板とした仕様などが準耐火構造（防火構造も満たす）の構造方法を例示したH12建設省告示第1358号に位置付けられたほか、京都府建築工業協同組合による、厚さ12mm以上の野地板及び面戸板での防火構造（30分準耐火構造）の大臣認定を取得など、伝統的な木材あらかわしの仕様によって延焼を防止することが可能です。

■開口部

準防火地域の2階建て京町家の外壁開口部に設ける防火設備には、建物の周囲において発生する火災に対し、火災発生後20分間屋外から屋内へ炎を貫通させない性能が求められます。京町家の外壁開口部は木製ガラス引き戸のため、延焼防止性能を確保することが難しく、火災時にガラスが脱落して延焼経路になることも少なくありません。しかし、木製ガラス引き戸の外側に、木製防火雨戸（大臣認定）を用いることにより、伝統的な意匠を残しながら、アルミ製防火設備等と同様に遮炎性を確保し、建物間の延焼を防止することが可能です。

※ 外壁及び軒裏の防火仕様の詳細については、「土塗壁と化粧軒裏の防火マニュアル：京都府建築工業協同組合発行」をご参照ください。

第1章 大臣認定の概要と使い方

木製防火雨戸は、雨戸の鏡板に厚さ30mmの木材を用いた防火設備の国土交通大臣の認定（以下「大臣認定」といいます。）を取得しています。大臣認定には、使用する木材について、厚さや納まり、防火性能に関わる加工寸法等が細かく定められています。防火設備としての性能を確保するよう、本ガイドブック第2章の内容をよくご確認のうえ、設計してください。

1-1. 大臣認定の概要

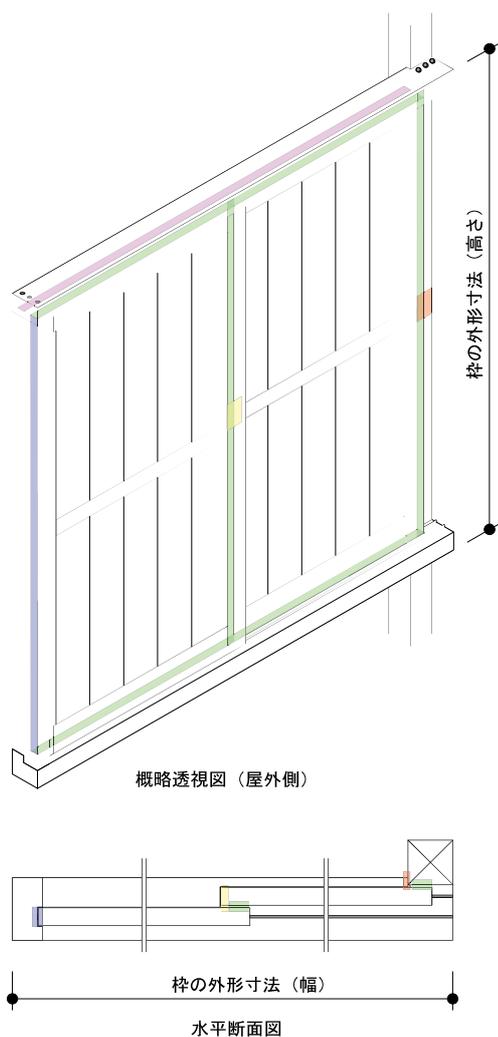
木製防火雨戸（大臣認定）は、建物の躯体に取り付く「枠」と、「枠」の中に納まる「戸」により構成されます。三本溝による3連の雨戸と、二本溝による2連の雨戸が設計可能です。

また、火炎が貫通しやすい枠と戸の取り合い部には、加熱発泡材や金属製の補強材を設けることで、20分間の遮炎性を確保しています。

認定番号	EC-0256
認定をした構造方法等の名称	木製片引き戸
法的位置付け	法施行令第137条の10第四号の規定に基づく「20分間防火設備」 (法施行令第109条に規定する防火設備であって、これに建築物の周囲において発生する通常の火災による火熱が加えられた場合に、加熱開始後20分間当該加熱面以外の面(屋内に面するものに限る。)に火炎を出さないものとして、国土交通大臣の認定を受けたもの)
使用可能箇所	準防火地域内にある建築物のうち階数2以下で、延べ面積が500㎡以下のもの、防火地域内にある延べ面積が50㎡以内の平家建ての附属建築物 など ※ 木製防火雨戸の内側には、木製建具などの防火性能のない窓も設置可能です。 ※ 京町家などの木造建築物のみならず、鉄骨造、鉄筋コンクリート造、新築、増築に関わらず活用可能です。

■大臣認定仕様の概要一覧

[二本溝2連雨戸の場合]



概略透視図 (屋外側)

枠の外形寸法 (幅)

水平断面図

★火炎を通さないための主なポイント

戸を固定する

上枠には、金属製の
「上枠補強材」
枠が燃え進んだ際に、戸が
脱落することを防止します。

戸尻には
「カマ錠」
柱側の戸を柱に固定し、
隙間を生じさせません。

戸同士には
「ネジ締めり錠」
戸相互を固定し、隙間
を生じさせません。

隙間を埋める

戸同士及び戸と枠の隙間には
「加熱発泡材」
火災時に熱が加わると膨張し、
火炎貫通を防ぎます。

戸当たり部分には
「気密材」
戸と枠の密着性を高めて、
火炎貫通を防ぎます。

[二本溝2連雨戸の場合]

制限無し

高さ2000mm以下×幅2074mm以下

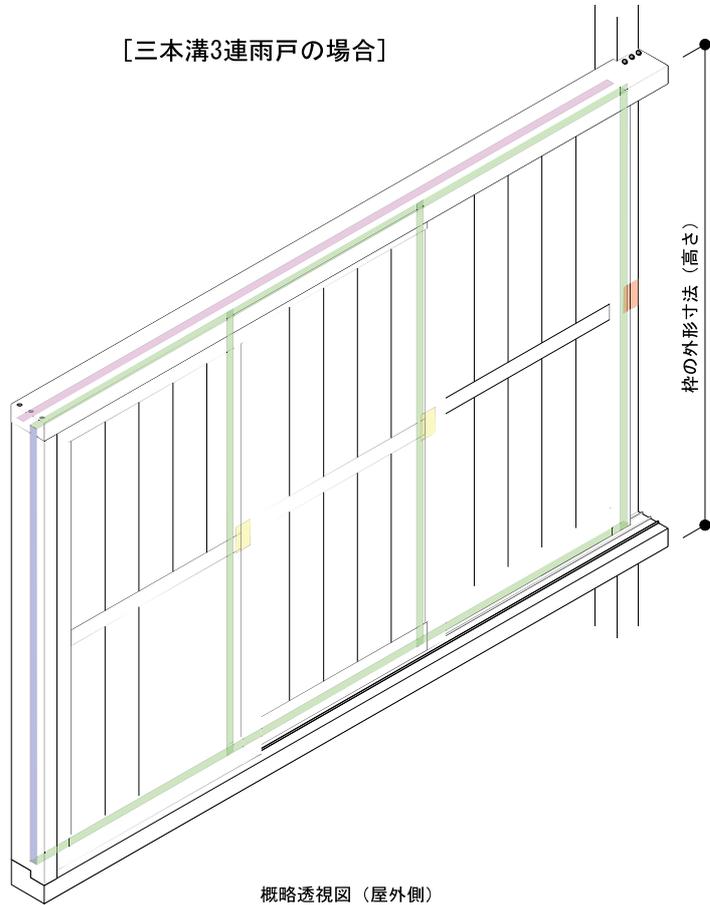
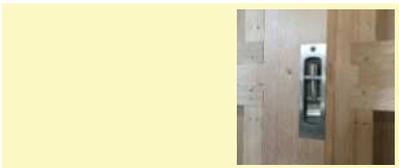
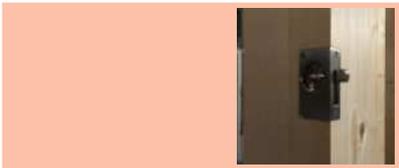
高さ1863mm以下×幅1016mm以下×厚さ36mm以上

樹種

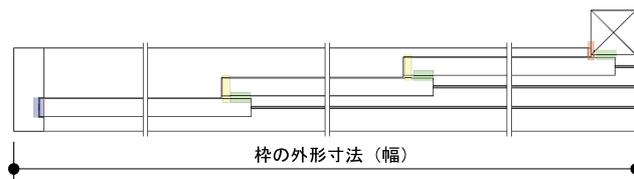
枠の外形寸法

戸の寸法

[三本溝3連雨戸の場合]



概略透視図 (屋外側)



水平断面図

[三本溝3連雨戸の場合]	
樹種	制限無し
枠の外形寸法	高さ2000mm以下 × 幅3030mm以下
戸の寸法	高さ1863mm以下 × 幅1016mm以下 × 厚さ36mm以上

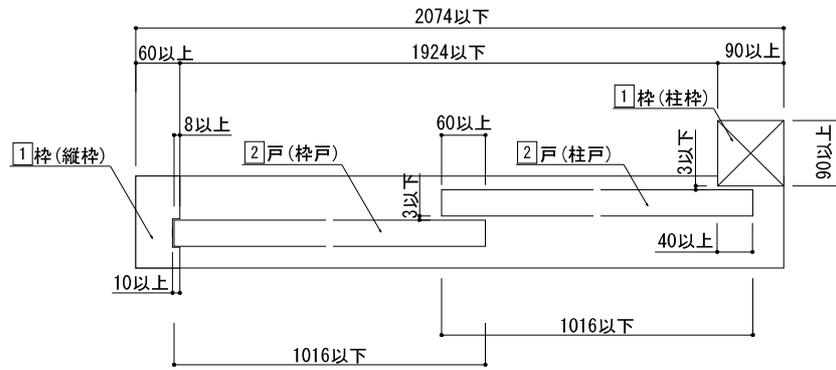


図 水平断面図 (二本溝 2 連雨戸の場合)

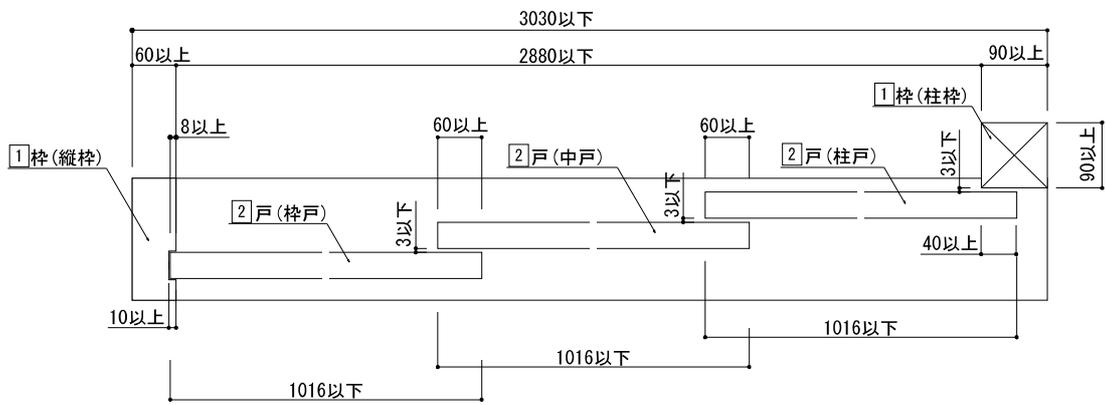


図 水平断面図 (三本溝 3 連雨戸の場合)

1-2. 木製防火雨戸の運用方法

木製防火雨戸の大臣認定の運用フローを下図に示します。活用に当たっては、大臣認定の内容及び活用に必要な手続を遵守してください。木製防火雨戸の防火性能を確保するため、事務局（京都市及び京都府建築工業協同組合）が開催する講習会を受講し、製作の注意点等を熟知したうえで、市の登録制度により登録を受けた者に限り、製作することができます。

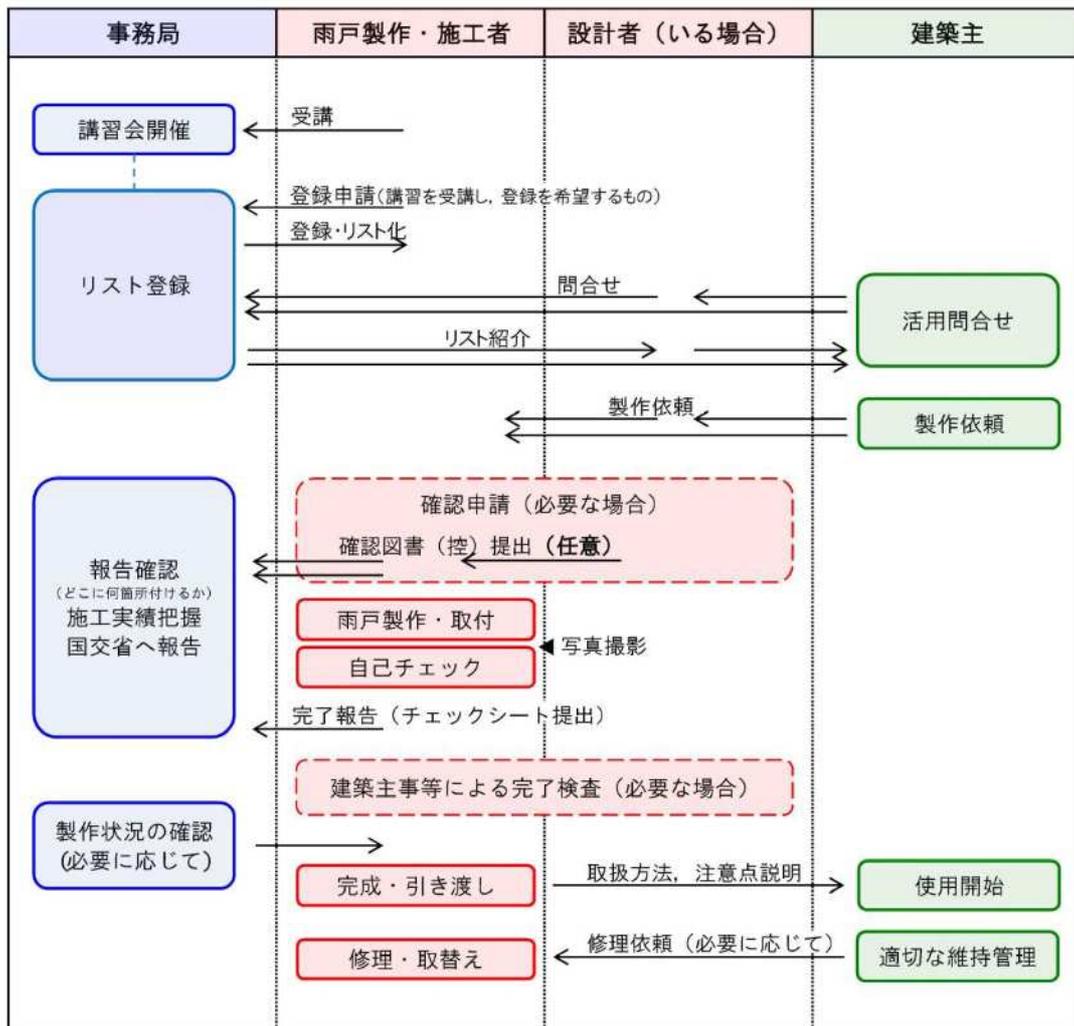


図 運用フロー

<雨戸製作・施工者の方へ>

- ・ 事務局の登録を受け、「木製防火雨戸の製作・施工マニュアル」に記載の製作方法により、認定仕様から外れることのないように製作・施工してください。
- ・ 製作・施工が完了したら、「木製防火雨戸の製作・施工チェックシート」、「製作中記録写真」及び「完成写真」により事務局に完了報告を行ってください。
- ・ 建築主への引き渡しの際は、木製防火雨戸を適切に維持管理するため、建築主に取扱や注意点を必ず説明してください。

<設計者の方へ>

- ・ 本ガイドブックに記載の内容を理解し、樹種、外形寸法、部材寸法、構成部材など認定仕様から外れることのないように適切に設計してください。
- ・ 木製防火雨戸を製作できるのは、詳細な認定仕様を理解している登録者のみです。木製防火雨戸の活用を検討している場合は、事務局が公開している登録者へお問合せください。
- ・ 建築確認を申請する場合には、確認申請書第二面「6. 工事施工者」欄に、雨戸製作・施工者（登録者）名を記載してください。（製作・施工者が元請け施工者でない場合は、元請け施工者に併記してください。）
- ・ 建築確認を申請する場合には、確認済証交付後に建築確認申請図書の写し（確認申請書第一面～第六面、雨戸設置部分の平面図及び立面図）を事務局に提出（任意）してください。
- ・ 建築主事や指定確認検査機関の完了検査を受ける際には、木製防火雨戸が大臣認定仕様に適合しているかどうかを確認するため、「木製防火雨戸の製作・施工チェックシート」、「製作中記録写真」及び「完成写真」を建築主事や指定確認検査機関へ提出してください。

<建築主の方へ>

- ・ 木製防火雨戸を製作できるのは、詳細な認定仕様を理解している登録者のみです。木製防火雨戸の活用を検討している場合は、事務局が公開している登録者へお問合せください。（設計者や工務店などを通じてお問合せいただいても構いません。）

<建築主事及び指定確認検査機関の方へ>

- ・ 建築確認申請図書を確認される際は、確認申請書第二面「6. 工事施工者」欄に記載の雨戸製作・施工者が登録を受けている者であるかどうかを事務局が公開する「登録者リスト（登録簿）」により確認してください。
- ・ 完了検査を行う際は、製作・施工者より提出された「木製防火雨戸の製作・施工チェックシート」、「製作中記録写真」及び「完成写真」による書類確認のほか、現地での目視によって大臣認定仕様に適合しているかを確認してください。

1-3. 木製防火雨戸製作・施工に当たっての諸条件等について

木製防火雨戸の防火性能を確保するため、第2章及び「木製防火雨戸の製作・施工マニュアル」に掲載している仕様を遵守して製作・施工に当たっていただく必要がありますが、その仕様や注意点のうち、重要なものとその理由を以下にまとめます。

(1) 樹種

樹種の制限はありません。

(ただし、木材の密度は 0.3 g/cm^3 以上としてください。)

理由 一般的に屋外で使用される樹種のうち、防火上最も不利なスギで試験を受けたためです。

(2) 節

木材の節は、生き節はそのままでもよいですが、抜け節、節の欠けがある場合は、木工用パテで隙間なく補修します。

理由 隙間や空洞があると、その部分の木材厚さが薄くなり燃え抜けやすくなるためです。

(3) 外形寸法の制限

雨戸の寸法や、枠を含めた外形寸法等に制限があります。

理由 大臣認定のための試験を実施した雨戸寸法や外形寸法が、最大寸法となります。

(4) 部材寸法の制限

雨戸や枠を構成する枠や鏡板等の部材には、断面寸法等に制限があります。

理由 大臣認定のための試験を実施した枠や鏡板等の断面寸法が、最低寸法となります。

なお、経年変化（乾燥等）により、部材間に隙間が生じる可能性があるため、木製防火雨戸に使用する木材の含水率は、15%以下とすることが望ましいです。

1-4. 木製防火雨戸の使用上の注意点（メンテナンス手法と経年変化対応）

木製防火雨戸を使用される方へ

「木製防火雨戸」は、「雨戸」という名称ですが、「隣近所で火災があった時に、もらい火を防ぎ、建物を守る」ことを目的として開発したものです。

大雨や台風の際の雨戸として、留守にする際の防犯対策としてはもちろん、万が一隣近所で火災があったときにも、雨戸を使いましょう。

常日頃（定期的に）や、台風や地震の後に、確認してみましょう。

- ・ 戸はスムーズに開閉できますか、戸を動かす時に変な音がしませんか。
- ・ レール部分にゴミが溜まっていませんか。
- ・ 木が痩せたり割れたりして隙間は空いていませんか。
- ・ 鍵は上手く締められますか。
- ・ 加熱発泡材や気密材（黒いテープ状のもの）は剥がれていませんか。

こんなときは、当初の施工業者に連絡しましょう。

- ・ 戸がスムーズに開閉できない、戸を動かす時に変な音がする。
- ・ 戸の木が割れて、隙間が空いてきた。
- ・ 鍵が上手く締まらない。
- ・ 加熱発泡材や気密材が剥がれてきた。

いざという時（火災）は・・・

- ・ 隣近所で火災があった時は、可能な限り、雨戸を閉めてから避難しましょう。
（身の危険を感じる時は、当然、身の安全確保が第一です。）
- ・ 雨戸を閉めるときは、鍵もすべて施錠することで、本来の防火性能を発揮します。

開発に携わった立場からのアドバイス

<木製防火雨戸を使用される方へ>

雨戸は通常時にはあまり使用されません。字面でいくと雨天時（大雨や台風）や日除けに使用すると、防犯上に使用されていました。また、1本引きのため、戸袋内で順番に1枚ずつ引き出さなくてはならないため、軽便な建具が使われていました。

今回の木製防火雨戸の開発では、木材のみで20分間の防火性能を確保するために、材料の厚みが必要となり、建具の重量が重くなります。

この弱点を解消するため、また、火災時に素早く閉められるようにするため、建具1枚につき1本の専用溝（レール）を付けて引き出せる仕様とし、子供でも簡単に雨戸を引き出せるようにしました。

鍵は、建具と枠、建具と建具の隙間をなくすために確実に締めることが必須条件です。外出時など、防犯面も含めて、常に使用するようにはしていただければと思います。常に使用することで建具の不具合などは簡単に点検することができます。

<木製防火雨戸を製作、施工する方へ>

この木製防火雨戸の生命線は、「枠と建具」「建具と建具」の取り付け部分です。建具の戸車の確実な施工（重さによる戸車の沈み込み防止）と加熱発泡材、気密材と金属製の上枠補強材の適切かつ確実な施工が必要です。

令和3年10月
京都府建築工業協同組合
相談役 木村忠紀

第2章 大臣認定の詳細

2-1. 認定書

<h1>認 定 書</h1>	
国住指第138号 令和3年4月27日	
京都市 市長 門川 大作 様 京都府建築工業協同組合 理事長 木村 忠紀 様	
国土交通大臣 赤羽 一嘉	
<p>下記の構造方法等については、建築基準法第68条の25第1項（同法第88条第1項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第137条の10第四号（20分間の準遮炎性能を有する防火設備）の規定に適合するものであることを認める。</p>	
<p>記</p>	
1. 認定番号	EC-0256
2. 認定をした構造方法等の名称	木製片引き戸
3. 認定をした構造方法等の内容	別添の通り
<p>（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。</p>	

2-2. 認定書 別添（認定仕様）抜粋

1. 構造名 木製片引き戸

2. 形状及び寸法等

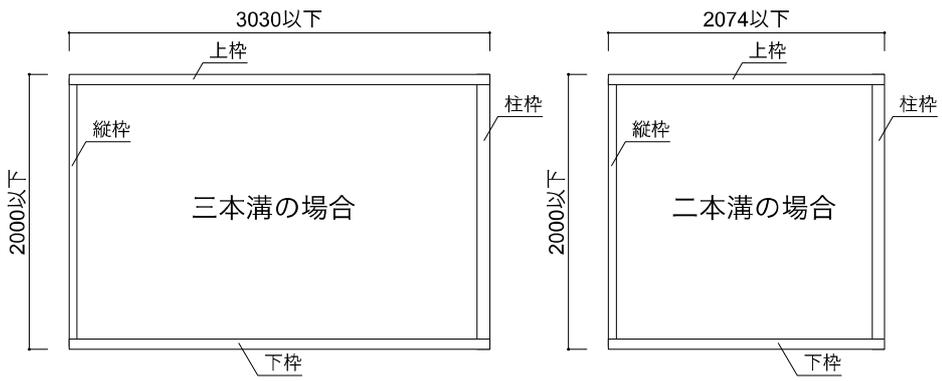
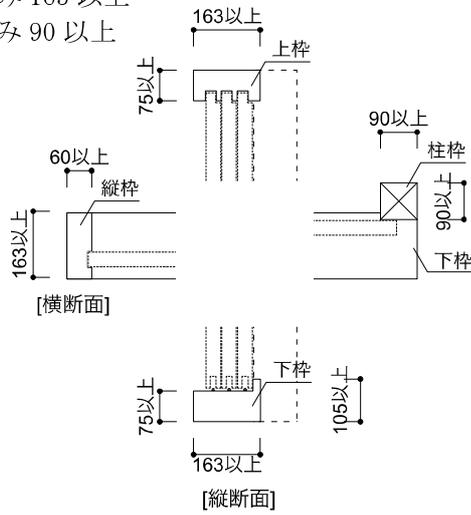
(寸法単位：mm)

項目	仕様
窓高さ	2000 以下
窓幅	3030 以下
窓枠見込厚	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) 124 以上(二本溝の場合) (2) 163 以上(三本溝の場合)

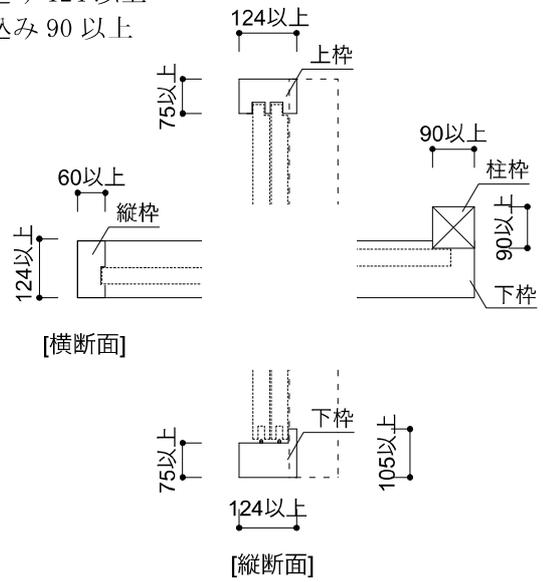
3. 材料構成

1) 主構成材料

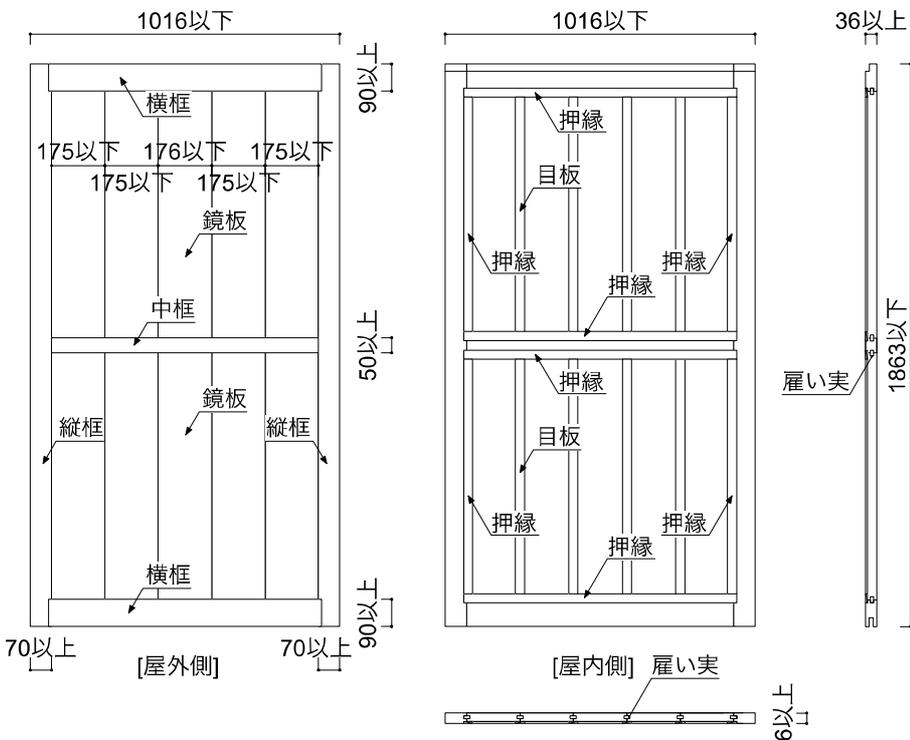
(寸法単位：mm)

項目	仕様
1 枠	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 木 ・種類 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) 製材 (2) 集成材 ・寸法 高さ 2000 以下×幅 3030 以下 (三本溝の場合) 高さ 2000 以下×幅 2074 以下 (二本溝の場合)  <ul style="list-style-type: none"> ・構成材断面寸法 (三本溝の場合) 上枠 見付け 75 以上×見込み 163 以上 下枠 見付け 75 以上 (屋内側立上り部分は 105 以上) ×見込み 163 以上 縦枠 見付け 60 以上×見込み 163 以上 柱枠 見付け 90 以上×見込み 90 以上 

(寸法単位：mm)

項目	仕様
I 枠 (つづき)	<p>(二本溝の場合)</p> <p>上枠 見付け 75 以上×見込み 124 以上 下枠 見付け 75 以上 (屋内側立上り部分は 105 以上) ×見込み 124 以上 縦枠 見付け 60 以上×見込み 124 以上 柱枠 見付け 90 以上×見込み 90 以上</p>  <p>[横断面]</p> <p>[縦断面]</p> <ul style="list-style-type: none">・密度 $0.38 \pm 0.08 \text{g/cm}^3$ 以上・表面塗装 (1)～(8)のうち、いずれか一仕様とする<ol style="list-style-type: none">(1) なし(2) 合成樹脂調合ペイント塗り(3) クリヤラッカー塗り(4) フタル酸樹脂エナメル塗り(5) 合成樹脂エマルジョンペイント塗り(6) ウレタン樹脂ワニス塗り(7) オイルステイン塗り※ (8) 木材保護塗料塗り<ul style="list-style-type: none">・塗布量 50g/m^2 以下 (有機固形分 28g/m^2 以下)

※ 一般的によく使用される「べんがら」，「柿渋」，「オスモカラー」，「キシラデコール」等の商品も使えます。

項目	仕様
2戸	<p>材質 木</p> <ul style="list-style-type: none"> 種類 製材 寸法 高さ 1863 以下×幅 1016 以下×厚さ 36 以上 構成材断面寸法 <ul style="list-style-type: none"> 横框 見付け 90 以上×見込み 36 以上 縦框 見付け 70 以上×見込み 36 以上 中框 見付け 50 以上×見込み 36 以上 (戸の高さが 996.5 以下の場合は、ありまたはなし) 鏡板 見付け 176 以下×見込み 30 以上 目板及び押縁 見付け 30 以上×見込み 6 以上 雇い実 断面寸法 10 以上×20 以上 密度 $0.38 \pm 0.08 \text{g/cm}^3$ 以上  <p>The technical drawings show the exterior and interior views of a sliding door. The exterior view (left) shows a frame with a top horizontal frame (横框) and bottom horizontal frame (横框), and vertical frames (縦框) on the sides. The interior view (right) shows the sliding mechanism with push rails (押縁) and panels (目板). Dimensions include a total width of 1016 mm or less, a total height of 1863 mm or less, and individual component dimensions such as 90 mm for the top frame, 50 mm for the middle frame, and 70 mm for the side frames. Labels include '屋外側' (exterior side) and '屋内側' (interior side).</p> <ul style="list-style-type: none"> 表面塗装 (1)～(8)のうち、いずれか一仕様とする <ol style="list-style-type: none"> なし 合成樹脂調合ペイント塗り クリヤラッカー塗り フタル酸樹脂エナメル塗り 合成樹脂エマルジョンペイント塗り ウレタン樹脂ワニス塗り オイルステイン塗り ※ 木材保護塗料塗り <ul style="list-style-type: none"> 塗布量 50g/m^2 以下 (有機固形分 28g/m^2 以下)

※ 一般的によく使用される「べんがら」，「柿渋」，「オスモカラー」，「キシラデコール」等の商品も使えます。

項目	仕様																		
3 加熱発泡材	<p>[1] 上枠用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種類 熱膨張材（塩化ビニル系） ・組成（質量%） <table style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">無機系充てん材</td> <td style="padding-left: 5px;">25\pm7</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">熱膨張性黒鉛</td> <td style="padding-left: 5px;">25\pm5</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">塩ビ系樹脂</td> <td style="padding-left: 5px;">50\pm8</td> </tr> </table> ・寸法 幅 10 以上×厚さ 1.6 以上×長さ 1004 以下 ・配置本数 2 本 ・比重 1.2 以上 1.6 以下 <p>[2] 戸先用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種類 熱膨張材（塩化ビニル系） ・組成（質量%） <table style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">無機系充てん材</td> <td style="padding-left: 5px;">25\pm7</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">熱膨張性黒鉛</td> <td style="padding-left: 5px;">25\pm5</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">塩ビ系樹脂</td> <td style="padding-left: 5px;">50\pm8</td> </tr> </table> ・寸法 幅 10 以上×厚さ 1.6 以上×長さ 1839 以下 ・配置本数 2 本 ・比重 1.2 以上 1.6 以下 <p>[3] 戸下部用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種類 熱膨張材（塩化ビニル系） ・組成（質量%） <table style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">無機系充てん材</td> <td style="padding-left: 5px;">25\pm7</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">熱膨張性黒鉛</td> <td style="padding-left: 5px;">25\pm5</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;">塩ビ系樹脂</td> <td style="padding-left: 5px;">50\pm8</td> </tr> </table> ・寸法 幅 10 以上×厚さ 1.6 以上×長さ 1012 以下 ・配置本数 1 本 ・比重 1.2 以上 1.6 以下 	無機系充てん材	25 \pm 7	熱膨張性黒鉛	25 \pm 5	塩ビ系樹脂	50 \pm 8	無機系充てん材	25 \pm 7	熱膨張性黒鉛	25 \pm 5	塩ビ系樹脂	50 \pm 8	無機系充てん材	25 \pm 7	熱膨張性黒鉛	25 \pm 5	塩ビ系樹脂	50 \pm 8
無機系充てん材	25 \pm 7																		
熱膨張性黒鉛	25 \pm 5																		
塩ビ系樹脂	50 \pm 8																		
無機系充てん材	25 \pm 7																		
熱膨張性黒鉛	25 \pm 5																		
塩ビ系樹脂	50 \pm 8																		
無機系充てん材	25 \pm 7																		
熱膨張性黒鉛	25 \pm 5																		
塩ビ系樹脂	50 \pm 8																		

2) 副構成材料

(寸法単位: mm)

項目	仕様
①下枠レール	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) ステンレス 2) 鉄 ・寸法 高さ 7.5_{±1}以下
②ネジ締まり錠	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 1)～3)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) 黄銅 2) ステンレス 3) 鉄 ・彫込寸法 <ul style="list-style-type: none"> 錠 高さ 120 以下×幅 35 以下×深さ 14.8 以下 受 高さ 45 以下×幅 23 以下×深さ 15 以下
③カマ錠	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 1)～3)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) 黄銅 2) ステンレス 3) 鉄 ・彫込寸法 <ul style="list-style-type: none"> 錠 高さ 58 以下×幅 30 以下×深さ 18 以下 受 高さ 60 以下×幅 20 以下×深さ 10 以下
④気密材	<ul style="list-style-type: none"> ・材料 EPDM 混和物の発泡体 ・寸法 幅 10 以上×厚さ 10 以上(圧縮前) ・比重 0.11_{±0.11}
⑤戸車	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) ステンレス 2) 鉄 ・彫込寸法 短辺幅 14 以下×長辺幅 68 以下×深さ 28 以下
⑥上枠補強材	<ul style="list-style-type: none"> ・材質 (1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (1) 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3312 (2) 塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3318 (3) 塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3322 (4) 溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3321 (5) 塗装ステンレス鋼板 (フェライト系、マルテンサイト系に限る) <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3320 ・厚さ 0.35 以上 ・寸法 高さ 25 以上×奥行き 27 以上 ・塗装(材質(4)を除く) <ul style="list-style-type: none"> 1)～4)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) ウレタン系樹脂 2) アクリル系樹脂 3) フッ素系樹脂 4) ポリエステル系樹脂 ・塗布量 62g/m²以下

項目	仕様
⑦留付材	<p>[1]下枠レール留付用 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)くぎ ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)ステンレス 2)鉄 ・寸法 $\phi 1.57$ 以上\timesL25 以上 (2)木ねじ ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)ステンレス 2)鉄 ・寸法 $\phi 3.8$ 以上\timesL25 以上 ・留付間隔 330 以下</p> <p>[2]ネジ締まり錠留付用 木ねじ ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)ステンレス 2)鉄 ・寸法 $\phi 3.5$ 以上\timesL25 以上 ・留付本数 錠 2 本以上 受 4 本以上</p> <p>[3]カマ錠留付用 木ねじ ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)ステンレス 2)鉄 ・寸法 $\phi 2.7$ 以上\timesL16 以上 ・留付本数 錠 4 本以上 受 2 本以上</p> <p>[4]加熱発泡材留付用（上枠以外用） ステーブル ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)ステンレス 2)鉄 ・寸法 内幅 12 以上、足の長さ 10 以上 ・留付間隔 200 以下</p>

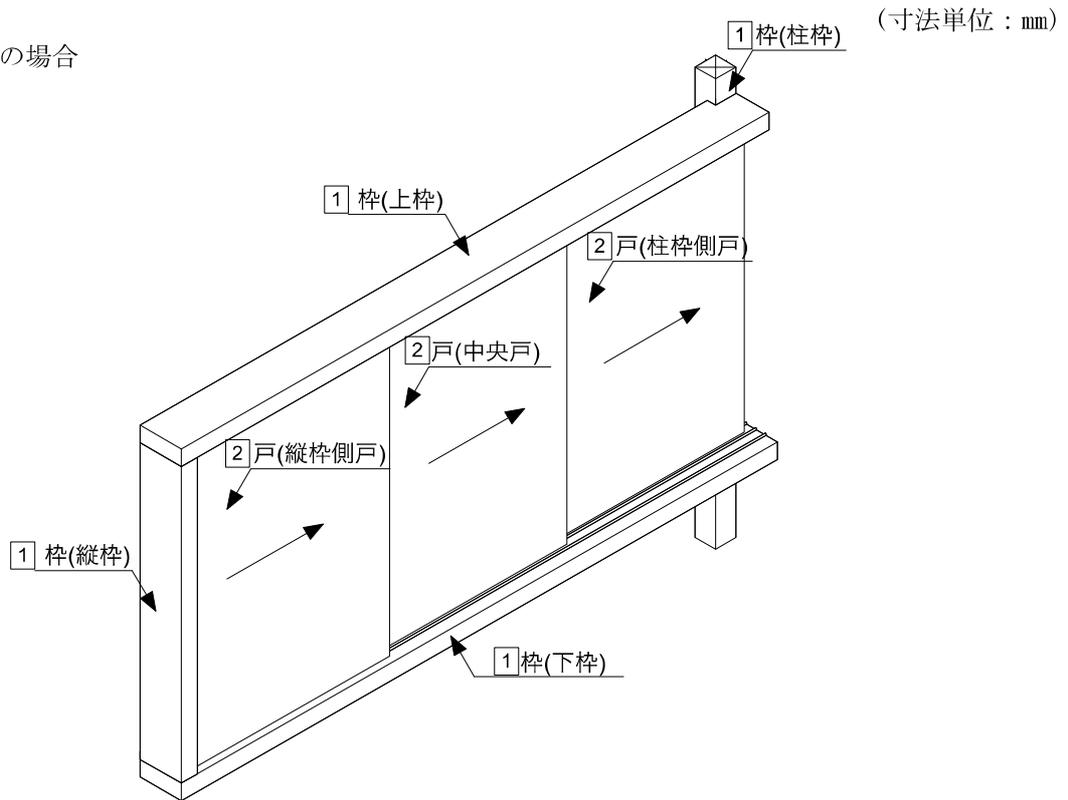
項目	仕様
⑦留付材 (つづき)	<p>[5]加熱発泡材（上枠用）及び上枠補強材留付用 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)くぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1)ステンレス 2)鉄 ・寸法 $\phi 1.25$ 以上×L19 以上 <p>(2)木ねじ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1)ステンレス 2)鉄 ・寸法 $\phi 3.8$ 以上×L25 以上 ・留付間隔 310 以下 ・留付本数 2 本以上／箇所 <p>[6]戸車留付用 木ねじ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1)ステンレス 2)鉄 ・寸法 $\phi 3.3$ 以上×L45 以上 ・留付本数 2 本以上／個 <p>[7]框同士留付用 (1)、(2)の併用</p> <p>(1)木ねじ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1)ステンレス 2)鉄 ・寸法 $\phi 3.0$ 以上×L25 以上 <p>(2)くさび</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 木材 ・寸法 幅 15×厚さ 3～7 ・留付本数 横框-縦框，中框-縦框の取り合い部に 1 個／箇所

項目	仕様
⑦留付材 (つづき)	<p>[8]押縁留付用</p> <p>[8]-1 框側用</p> <p>1)、2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>1)くぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 ｲ)、㇀)のうち、いずれか一仕様とする ｲ)ステンレス ㇀)鉄 ・寸法 $\phi 1.25$ 以上×L19 以上 <p>2)木ねじ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 ｲ)、㇀)のうち、いずれか一仕様とする ｲ)ステンレス ㇀)鉄 ・寸法 $\phi 2.2$ 以上×L20 以上 ・留付間隔 高さ方向 200 以下 横方向 176 以下 ・留付本数 1 本以上／箇所 <p>[8]-2 鏡板側用</p> <p>木ねじ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)ステンレス 2)鉄 ・寸法 $\phi 2.2$ 以上×L20 以上 ・留付間隔 高さ方向 200 以下 横方向 176 以下 ・留付本数 1 本以上／箇所 <p>[9]目板留付用</p> <p>木ねじ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)ステンレス 2)鉄 ・寸法 $\phi 2.2$ 以上×L20 以上 ・留付間隔 高さ方向 200 以下 ・留付本数 2 本以上／箇所 <p>[10]枠留付用</p> <p>木ねじ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)ステンレス 2)鉄 ・寸法 $\phi 5.3$ 以上×L200 以上 ・留付間隔 上枠 450 以下 下枠 325 以下 縦枠 450 以下 <p>[11]縦枠-上枠下枠留付用</p> <p>木ねじ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1)ステンレス 2)鉄 ・寸法 $\phi 4.8$ 以上×L120 以上 ・留付本数 3 本以上／箇所

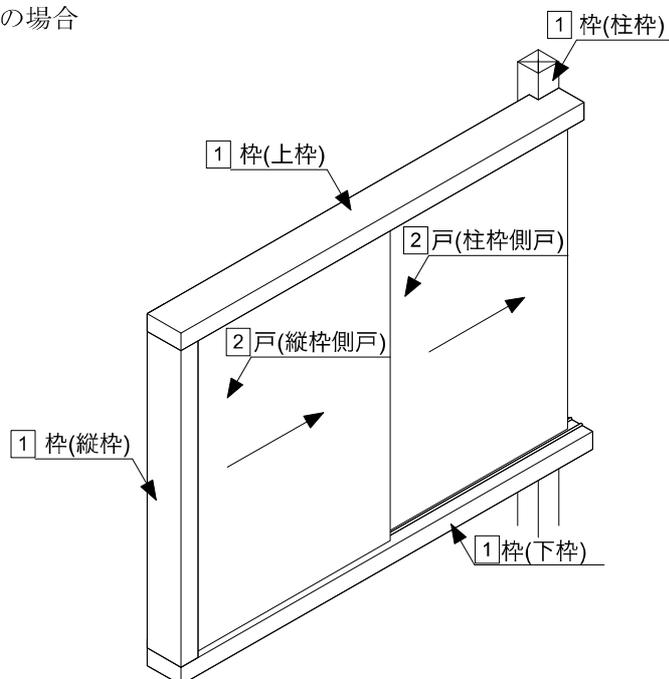
4. 構造説明図

(1) 透視図

・三本溝の場合



・二本溝の場合

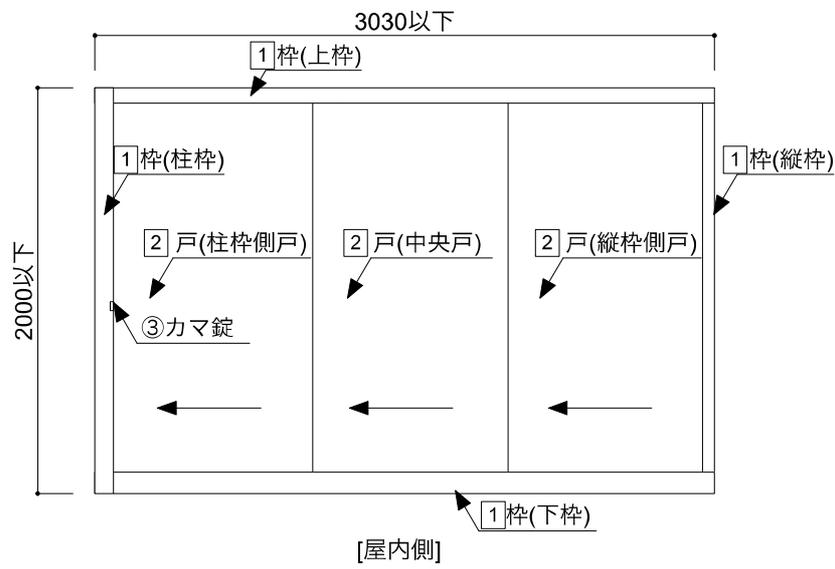
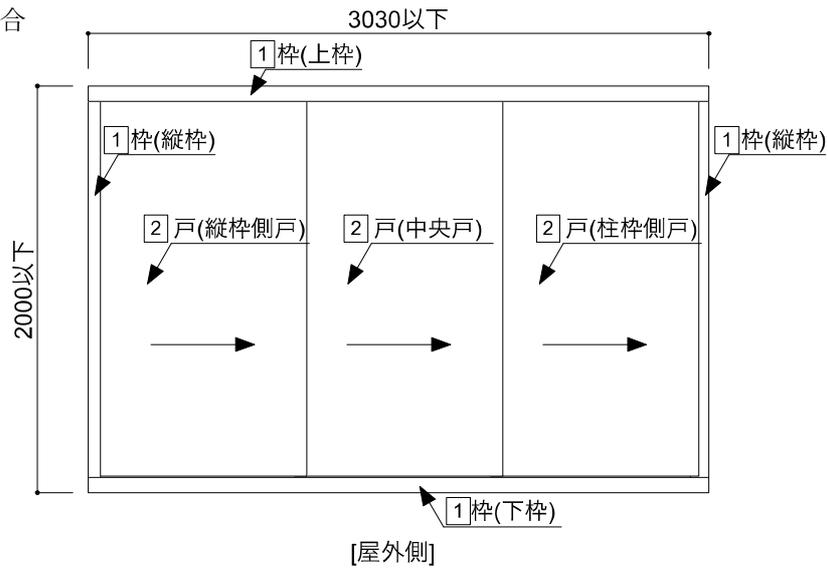


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

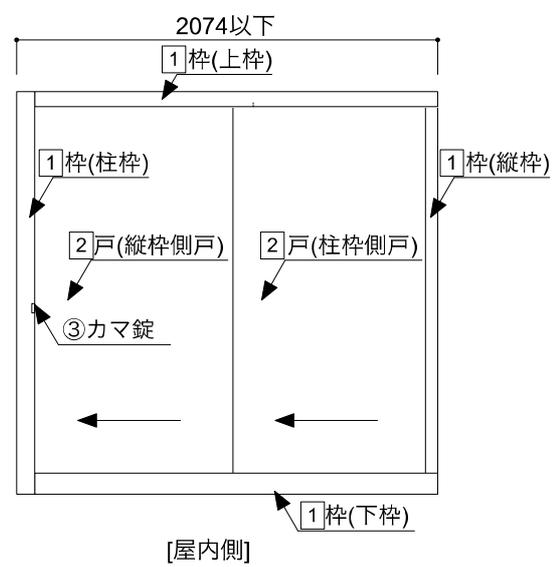
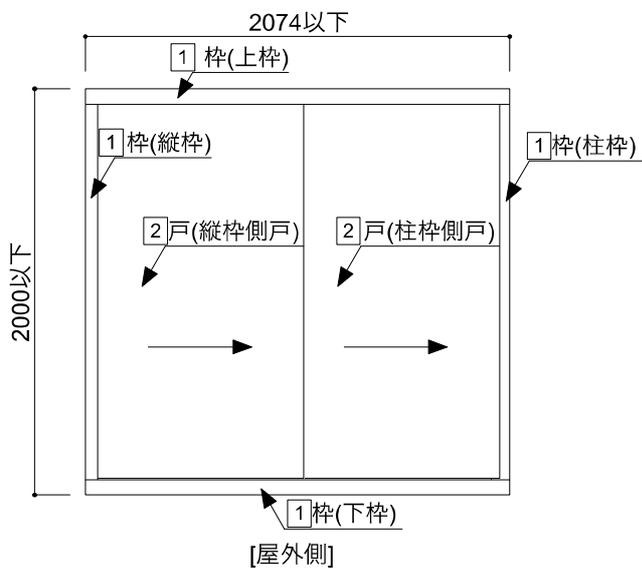
(2) 正面図

(寸法単位：mm)

・ 三本溝の場合



・ 二本溝の場合



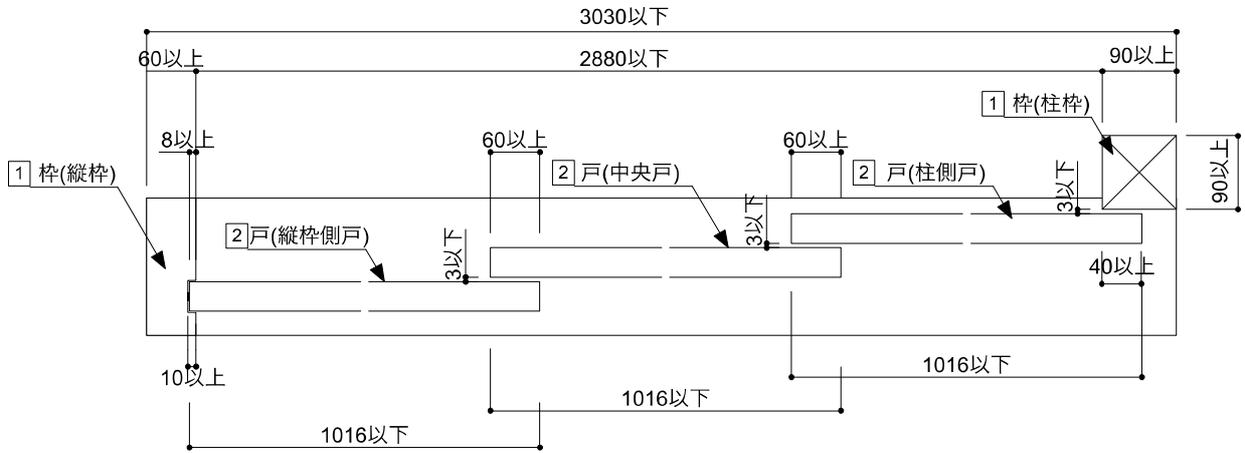
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

(3) 断面図

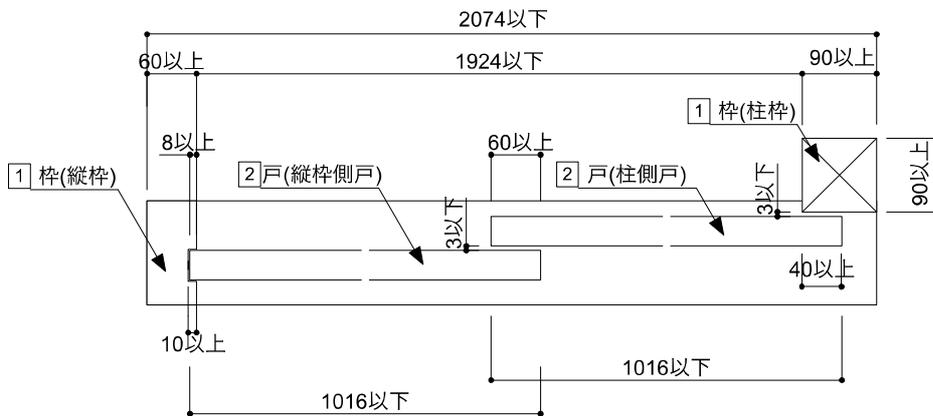
(寸法単位: mm)

1) 水平断面図

・ 三本溝の場合



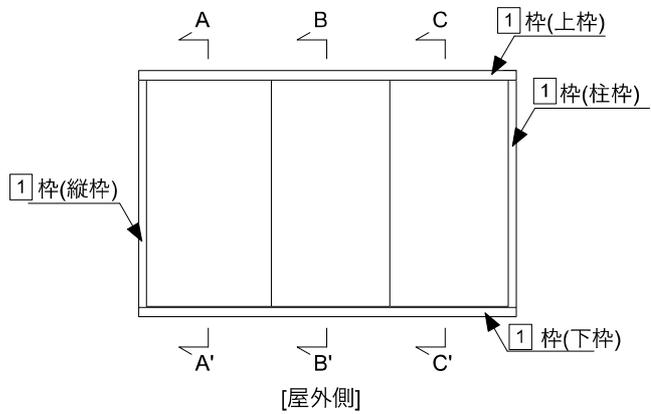
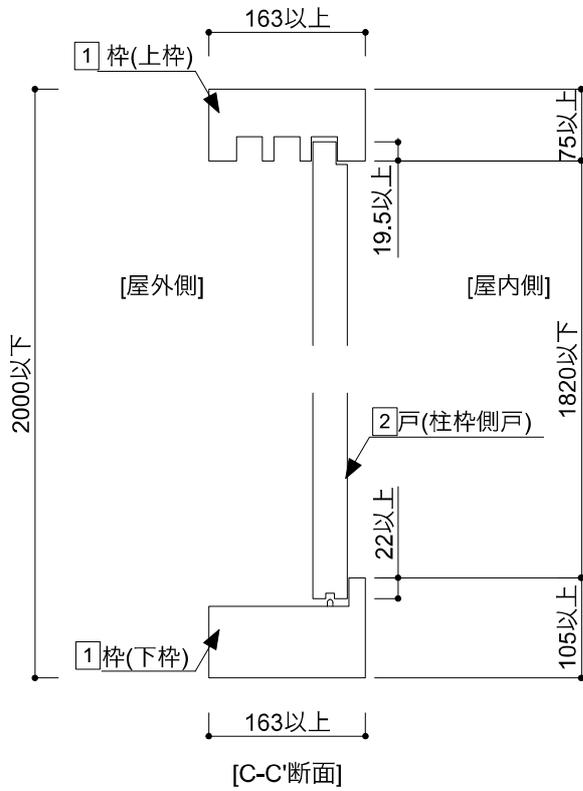
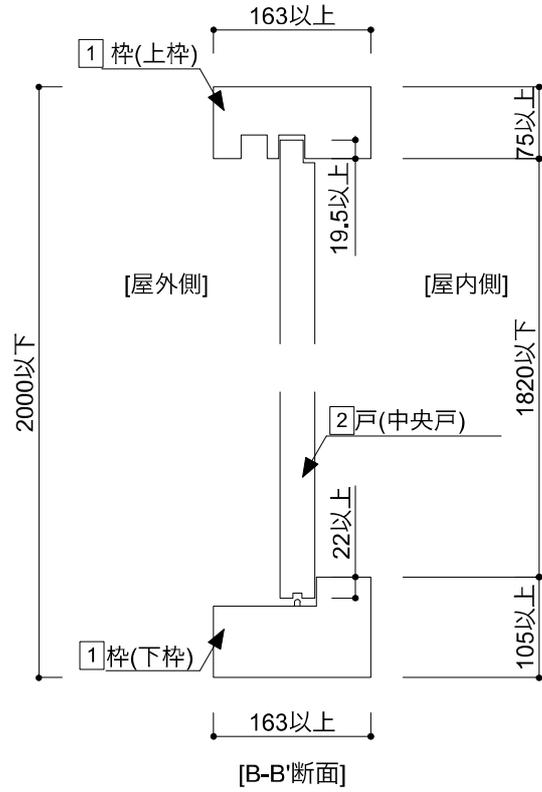
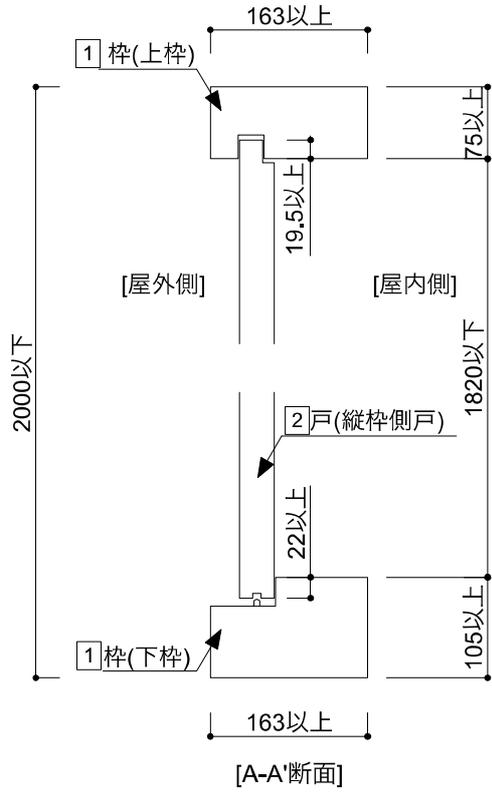
・ 二本溝の場合



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

2) 鉛直断面図
 ・三本溝の場合

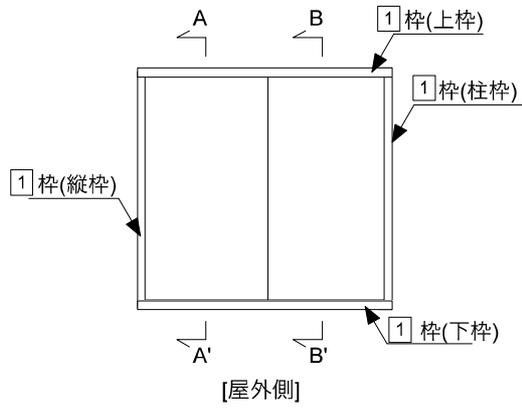
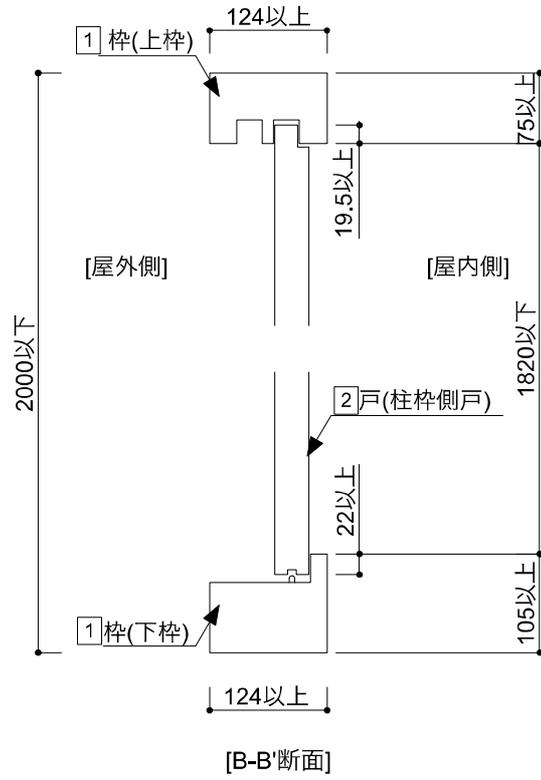
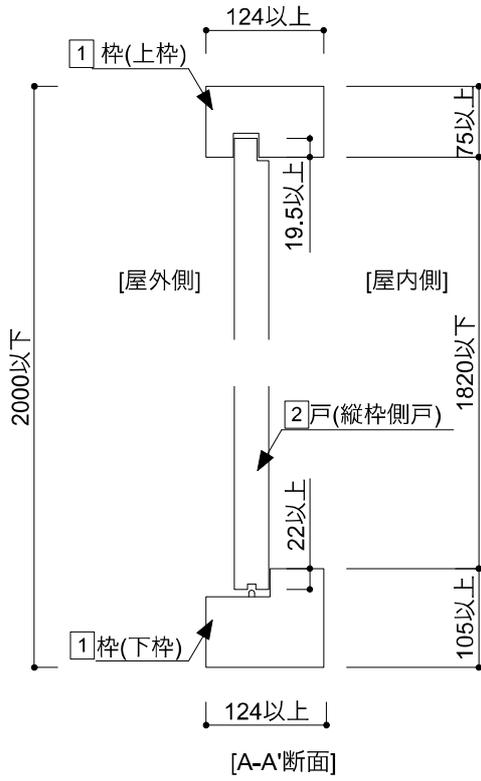
(寸法単位：mm)



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

・二本溝の場合

(寸法単位：mm)



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

付録

- 付録1 木製防火雨戸の製作・施工チェックシート（三本溝用／二本溝用）
- 付録2 木製防火雨戸の維持管理チェックシート（三本溝・二本溝共通）
- 付録3 性能評価試験の記録写真
- 付録4 関連法令（土壁・軒裏の防火構造）等
- 付録5 窓口案内

付録1

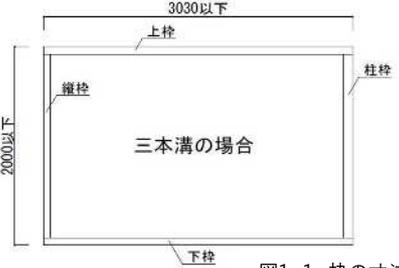
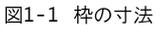
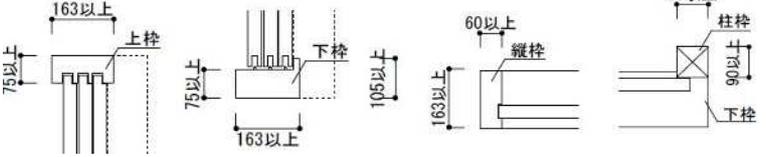
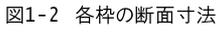
木製防火雨戸（認定番号：EC-0256）の製作・施工チェックシート（三本溝用）

工事名称：	
建築主：	記入日：
建築場所：	登録番号：
設計者：	登録者氏名：
木製防火雨戸の設置箇所：	

木製防火雨戸の製作・施工チェックシートの使い方

チェックシートの目的	このチェックシートは、木製防火雨戸の製作に当たり、大臣認定の仕様どおりに製作・施工が行われているか製作者自身でご確認いただくために、大臣認定書の別添に記載された仕様等をチェック用にまとめたものです。
製作者のみなさまへ	<ul style="list-style-type: none"> ・木製防火雨戸の製作途中や完成時に、大臣認定の仕様どおりに製作・施工が行われているかご自身でチェックしてください。 ・カメラマークのある項目は、完成時に見えず、仕様が確認できない部分であるため、製作中に記録写真を撮っておいてください。 ・製作・施工が完了したら、このチェックシート、製作中記録写真、完成写真を事務局へ提出し、完了報告を行ってください。 ・建築確認の完了検査を受ける際には、チェックシートや製作中記録写真を用意し、仕様が確認できるようにしてください。
検査員のみなさまへ	完了検査時に木製防火雨戸の仕様を確認する際、このチェックシートを活用いただき、認定仕様に適合していることをご確認ください。なお、防火性能を確保するうえで特に重要な内容については、チェック内容を赤字にしています。

仕様、留付方法・間隔等を満たしていることを確認した場合に、□にチェック（レ）を入れる

チェック内容		チェック
1 枠	枠を構成する材料は製材又は集成材か	<input type="checkbox"/>
	枠の材料はスギ、ヒノキ、マツ、ベイトガ、スプルス（所定の密度を満たす材）か 密度：0.38±0.08g/cm ³ 以上（屋外で一般的に使用されるスギ材の密度（0.38g/cm ³ 程度）以上の密度とすること）	<input type="checkbox"/>
	枠のサイズは高さ2000mm以下×幅3030mm以下か 図1-1を参照	<input type="checkbox"/>
	上枠、下枠、縦枠、柱枠の断面寸法は所定の寸法以上か 図1-2を参照	<input type="checkbox"/>
	部材の接合に接着剤（ボンド）を使用していないか	<input type="checkbox"/>
	縦枠と上下枠用の取付方法（ねじ、本数）は適切か 留付け材：木ねじ（φ4.8mm以上×120mm以上） 留付本数：3本以上/箇所	<input type="checkbox"/>
	各枠と外壁の取付方法（ねじ、ピッチ）は適切か 留付け材：木ねじ（φ5.3mm以上×200mm以上） 留付間隔：上枠・縦枠 450mm以下、下枠 325mm以下	<input type="checkbox"/>
	節や割れがある場合、パテで処理を行ったか	<input type="checkbox"/>
	塗装材の種類は適切か 塗装剤の種類（いずれか一仕様）：なし/合成樹脂調合ペイント/クリヤラッカー/フタル酸樹脂エナメル/合成樹脂エマルジョンペイント/ウレタン樹脂ワニス/オイルステイン/木材保護塗料（べんがら、柿渋など）/なし	<input type="checkbox"/>
	塗装材は塗りすぎでないか 50g/m ² 以下（有機固形分28g/m ² 以下） （塗装材の塗布量について、50g/m ² 以下であることがわかる資料又は写真を提出してください） （べんがら、柿渋、オスモは、塗布量50g/m ² 以下を満たしていれば、有機固形分28g/m ² 以内となります）	 <input type="checkbox"/>
		
		

仕様、留付方法・間隔等を満たしていることを確認した場合に、□にチェック（レ）を入れる

	チェック内容	チェック
2	戸を構成する材料は製材か	<input type="checkbox"/>
戸	枠の材料はスギ、ヒノキ、マツ、ベイトガ、スプルス（所定の密度を満たす材）か 密度：0.38±0.08g/cm ³ 以上（屋外で一般的に使用されるスギ材の密度（0.38g/cm ³ 程度）以上の密度とすること）	<input type="checkbox"/>
	戸のサイズは高さ1863mm以下×幅1016mm以下か 図2-1を参照	<input type="checkbox"/>
	縦框・横框・中框の見付け寸法及び見込み寸法は所定の寸法以上か 図2-1を参照（中框は、戸の高さが996.5mm以下の場合、設けなくてもよい）	<input type="checkbox"/>
	鏡板は見付け寸法176mm以下×見込み寸法30mm以上か	<input type="checkbox"/>
	目板・押縁は見付け寸法30mm以上×見込み6mm以上か	<input type="checkbox"/>
	雇い実の断面寸法は20mm以上×40mm以上か （雇い実の寸法がわかる写真を1枚以上提出してください。写真2-1を参照）	 <input type="checkbox"/>
	鏡板同士の接合部、鏡板と框間の接合部に雇い実を入れているか （雇い実の施工時の写真を1枚以上提出してください。写真2-2を参照）	 <input type="checkbox"/>
	部材の接合に接着剤（ボンド）を使用していないか	<input type="checkbox"/>
	框同士（縦框と横框、縦框と中框）の取付方法（ねじ、本数、くさび併用）は適切か 留付材：木ねじ（Φ3.0mm以上×25mm以上）とくさび（木材、幅15mm×厚さ3～7mm）の併用 留付本数：横框－縦框、中框－縦框の取合い部に1個／箇所	<input type="checkbox"/>
	押縁（框と鏡板）、目板（鏡板同士）の取付方法（くぎ／ねじ、本数）は適切か 押縁 留付材：木ねじ（框との留付はくぎでも可） 寸法：Φ2.2mm以上×20mm以上 留付間隔：高さ方向200mm以下、横方向176mm以下 本数：2本以上／箇所 目板 寸法：Φ2.2mm以上×20mm以上 留付間隔：高さ方向200mm以下 本数：2本以上／箇所	<input type="checkbox"/>
	節や割れがある場合、パテで処理を行ったか	<input type="checkbox"/>
	塗装材の種類は適切か 塗装剤の種類（いずれか一仕様）：なし／合成樹脂調合ペイント／クリヤラッカー／フタル酸樹脂エナメル／合成樹脂エマルジョンペイント／ウレタン樹脂ワニス／オイルステイン／木材保護塗料（べんがら、柿渋など）／なし	<input type="checkbox"/>
	塗装材は塗りすぎでないか 50g/m ² 以下（有機固形分28g/m ² 以下） （塗装材の塗布量について、50g/m ² 以下であることがわかる資料又は写真を提出してください） （べんがら、柿渋、オスモは、塗布量50g/m ² 以下を満たしていれば、有機固形分28g/m ² 以内となります）	 <input type="checkbox"/>
	縦框には、ネジ締めり錠、カマ錠、気密材が取り付けられているか	<input type="checkbox"/>

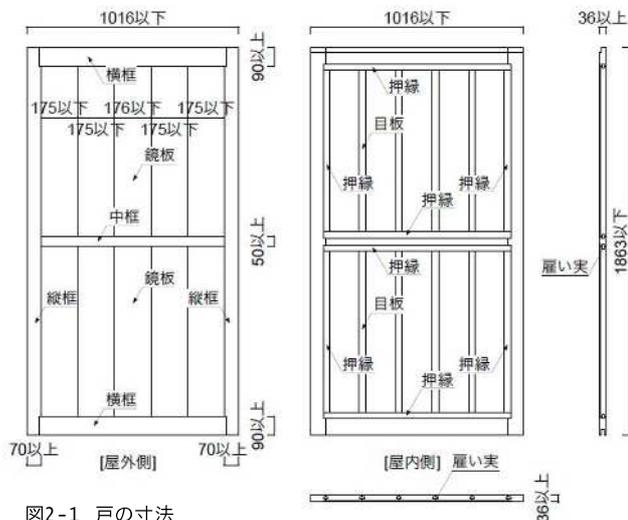


図2-1 戸の寸法

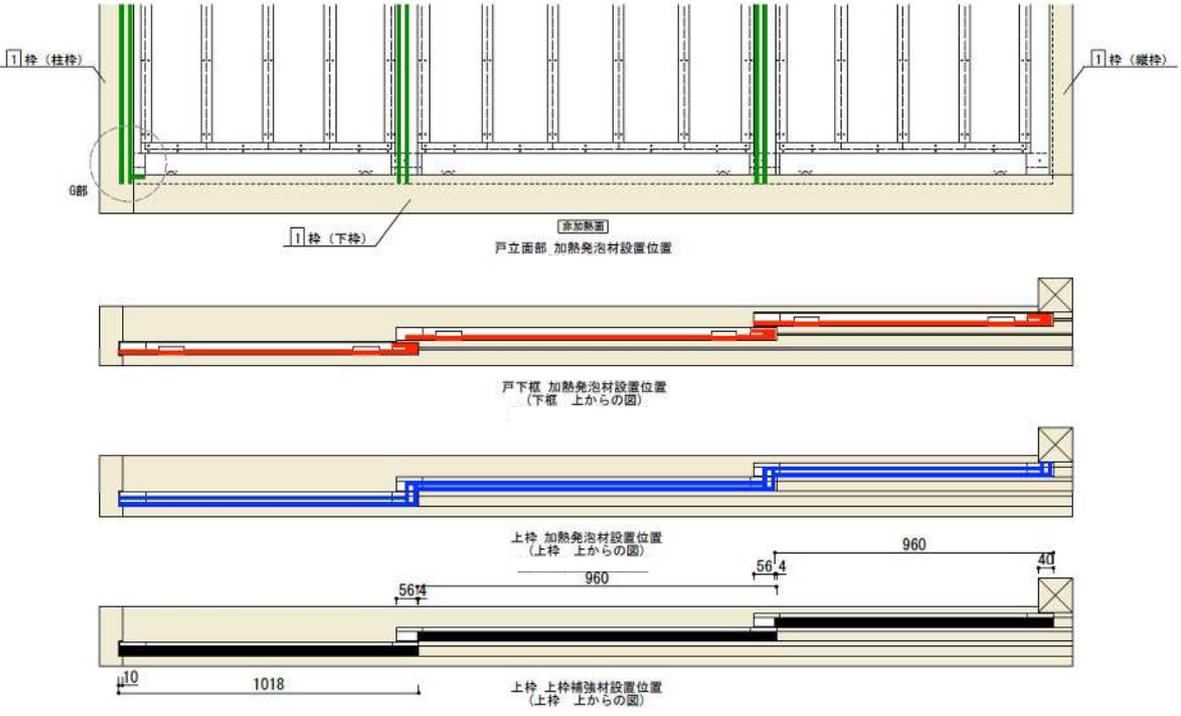


写真2-1 雇い実の断面寸法が確認できる写真



写真2-2 雇い実の施工が確認できる写真

仕様、留付方法・間隔等を満たしていることを確認した場合に、□にチェック（レ）を入れる

	チェック内容	チェック
	加熱発泡材は、例示の商品を使用しているか 種類：熱膨張材（商品名：積水化学工業フィブロック（塩化ビニル系）） 寸法：幅10mm以上×厚さ1.6mm以上	□
	加熱発泡材（上枠）の取付方法（くぎ／ねじ，ピッチ）は適切か 留付材：くぎ（φ1.25mm以上×19mm以上）／木ねじ（φ3.8mm以上×25mm以上） 留付間隔：310mm以下 留付本数：2本以上／箇所	□
	加熱発泡材（戸先，戸下部）の取付方法（ステーブル，ピッチ）は適切か 留付材：ステーブル（内幅12mm以上，足の長さ10mm以上） 留付間隔：200mm以下	□
	加熱発泡材は途切れずに全長にわたって留付けられているか	□
	加熱発泡材は所定位置に，所定本数が取り付けられているか 配置本数：上枠2本，戸先2本，戸下部1本 （戸下部に取りつけた加熱発泡材の写真を提出してください。図3-1，写真3-1を参照）	□ 
3 加熱発泡材	<div style="text-align: center;">  <p>図3-1 加熱発泡材の取り付け位置及び本数</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>提出する写真例</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>提出する写真例</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">写真3-1 戸下部に取りつけた発泡材が確認できる写真</p>	

仕様、留付方法・間隔等を満たしていることを確認した場合に、□にチェック（レ）を入れる

		チェック内容	チェック
4 副構成材	下 枠 レ ール	下枠レールは、所定の材料を使用しているか ステンレス/鉄 寸法：高さ7.5#mm以下	<input type="checkbox"/>
		下枠レールの取付方法（くぎ/ねじ、ピッチ）は適切か 留付材：くぎ（Φ1.57mm以上×L25mm以上）/木ねじ（Φ3.8mm以上×L25mm以上） 留付間隔：330mm以下	<input type="checkbox"/>
		戸がスムーズに開閉できるか	<input type="checkbox"/>
	ネ ジ 締 ま り 錠	ネジ締めり錠は、所定の材料を使用しているか 黄銅/ステンレス/鉄	<input type="checkbox"/>
		ネジ締めり錠の取付方法（ねじ本数）は適切か 留付材：木ねじ（Φ3.5mm以上×L25mm以上） 留付本数：錠2本以上、受4本以上	<input type="checkbox"/>
		ネジ締めり錠の取付用の穴の寸法は適切か 掘込寸法：錠 高さ120mm以下×幅35mm以下×深さ14.8mm以下、受 高さ45mm以下×幅23mm以下×深さ15mm以下 （掘込深さが所定の寸法以下であることがわかる写真を、錠及び受それぞれ各1枚以上提出してください）	 <input type="checkbox"/>
		ネジ締めり錠の閉鎖時に戸同士が動かないか	<input type="checkbox"/>
	カ マ 錠	カマ錠は、所定の材料を使用しているか 黄銅/ステンレス/鉄	<input type="checkbox"/>
		カマ錠の取付方法（ねじ本数）は適切か 留付材：木ねじ（Φ2.7mm以上×L16mm以上） 留付本数：錠4本以上、受2本以上	<input type="checkbox"/>
		カマ錠の取付用の穴の寸法は適切か 掘込寸法：錠 高さ58mm以下×幅30mm以下×深さ18mm以下、受 高さ60mm以下×幅20mm以下×深さ10mm以下 （掘込深さが所定の寸法以下であることがわかる写真を、錠及び受それぞれ各1枚以上提出してください）	 <input type="checkbox"/>
		カマ錠の閉鎖時に柱戸が動かないか	<input type="checkbox"/>
		カマ錠、ネジ締めり錠の閉鎖時に、全体が動かないか	<input type="checkbox"/>
	気 密 材	気密材は、例示の商品を使用しているか EPDM混和物の発泡体（商品名：日東電工EE1010P 粘着テープ付き） 寸法：幅10mm以上×厚さ10mm以上（圧縮前）	<input type="checkbox"/>
		気密材の取付方法（付属粘着テープなどによる取付）は適切か	<input type="checkbox"/>
		閉鎖時に気密材が潰れているか ※ 気密材は、戸と枠の密着性を高めて、火災貫通を防ぐうえで重要です！	<input type="checkbox"/>
	戸 車	戸車は、所定の材料を使用しているか ステンレス/鉄	<input type="checkbox"/>
		戸車の取付方法（ねじ本数）は適切か 留付材：木ねじ（Φ3.3mm以上×L45mm以上）、留付本数：2本以上/個	<input type="checkbox"/>
		戸車の取付用の穴の寸法は適切か 掘込寸法：短辺幅14mm以下×長辺幅68mm以下×深さ28mm以下 （掘込深さが所定の寸法以下であることがわかる写真を1枚以上提出してください）	 <input type="checkbox"/>
レールと戸の隙間が空きすぎていないか（6.5mm程度以下）		<input type="checkbox"/>	
上 枠 補 強 材	上枠補強材は、所定の材料（ガルバリウム鋼板）、厚み、寸法を使用しているか 厚さ：0.35mm以上、寸法：高さ25mm以上×奥行き27mm以上	<input type="checkbox"/>	
	上枠補強材の取付方法（くぎ/ねじ、ピッチ）は適切か 留付材：くぎ（Φ1.25mm以上×L19mm以上）/木ねじ（Φ3.8mm以上×L25mm以上） 留付間隔：310mm以下 留付本数：2本以上/箇所	<input type="checkbox"/>	
	上枠補強材の上にも加熱発泡材が付いているか	<input type="checkbox"/>	

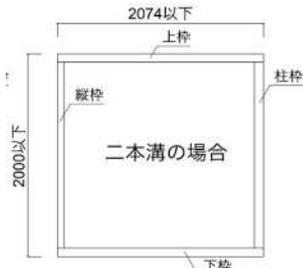
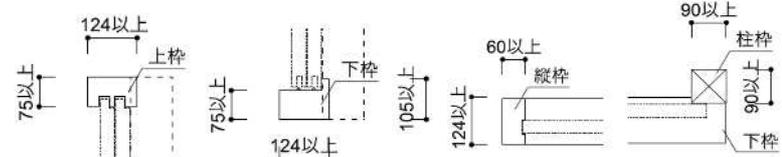
木製防火雨戸（認定番号：EC-0256）の製作・施工チェックシート（二本溝用）

工事名称：	
建築主：	記入日：
建築場所：	登録番号：
設計者：	登録者氏名：
木製防火雨戸の設置箇所：	

木製防火雨戸の製作・施工チェックシートの使い方

チェックシートの目的	このチェックシートは、木製防火雨戸の製作に当たり、大臣認定の仕様どおりに製作・施工が行われているか製作者自身でご確認いただくために、大臣認定書の別添に記載された仕様等をチェック用にまとめたものです。
製作者のみなさまへ	<ul style="list-style-type: none"> ・木製防火雨戸の製作途中や完成時に、大臣認定の仕様どおりに製作・施工が行われているかご自身でチェックしてください。 ・カメラマークのある項目は、完成時に見えず、仕様が確認できない部分であるため、製作中に記録写真を撮っておいてください。 ・製作・施工が完了したら、このチェックシート、製作中記録写真、完成写真を事務局へ提出し、完了報告を行ってください。 ・建築確認の完了検査を受ける際には、チェックシートや製作中記録写真を用意し、仕様が確認できるようにしてください。
検査員のみなさまへ	完了検査時に木製防火雨戸の仕様を確認する際、このチェックシートを活用いただき、認定仕様に適合していることをご確認ください。なお、防火性能を確保するうえで特に重要な内容については、チェック内容を赤字にしています。

仕様、留付方法・間隔等を満たしていることを確認した場合に、□にチェック（レ）を入れる

チェック内容		チェック
1 枠	枠を構成する材料は製材又は集成材か	<input type="checkbox"/>
	枠の材料はスギ、ヒノキ、マツ、ベイトガ、スプルス（所定の密度を満たす材）か 密度：0.38±0.08g/cm ³ 以上（屋外で一般的に使用されるスギ材の密度（0.38g/cm ³ 程度）以上の密度とすること）	<input type="checkbox"/>
	枠のサイズは高さ2000mm以下×幅2074mm以下か 図1-1を参照	<input type="checkbox"/>
	上枠、下枠、縦枠、柱枠の断面寸法は所定の寸法以上か 図1-2を参照	<input type="checkbox"/>
	部材の接合に接着剤（ボンド）を使用していないか	<input type="checkbox"/>
	縦枠と上下枠用の取付方法（ねじ、本数）は適切か 留付け材：木ねじ（φ4.8mm以上×120mm以上） 留付本数：3本以上/箇所	<input type="checkbox"/>
	各枠と外壁の取付方法（ねじ、ピッチ）は適切か 留付け材：木ねじ（φ5.3mm以上×200mm以上） 留付間隔：上枠・縦枠 450mm以下、下枠 325mm以下	<input type="checkbox"/>
	節や割れがある場合、パテで処理を行ったか	<input type="checkbox"/>
	塗装材の種類は適切か 塗装剤の種類（いずれか仕様）：なし/合成樹脂調合ペイント/クリヤラッカー/フタル酸樹脂エナメル/合成樹脂エマルジョンペイント/ウレタン樹脂ワニス/オイルステイン/木材保護塗料（べんがら、柿渋など）/なし	<input type="checkbox"/>
	塗装材は塗りすぎでないか 50g/m ² 以下（有機固形分28g/m ² 以下） （塗装材の塗布量について、50g/m ² 以下であることがわかる資料又は写真を提出してください） （べんがら、柿渋、オスモは、塗布量50g/m ² 以下を満たしていれば、有機固形分28g/m ² 以内となります）	 <input type="checkbox"/>
 		

仕様、留付方法・間隔等を満たしていることを確認した場合に、□にチェック（レ）を入れる

	チェック内容	チェック
2 戸	戸を構成する材料は製材か	<input type="checkbox"/>
	枠の材料はスギ、ヒノキ、マツ、ベイトガ、スプルス（所定の密度を満たす材）か 密度：0.38±0.08g/cm ³ 以上（屋外で一般的に使用されるスギ材の密度（0.38g/cm ³ 程度）以上の密度とすること）	<input type="checkbox"/>
	戸のサイズは高さ1863mm以下×幅1016mm以下か 図2-1を参照	<input type="checkbox"/>
	縦框・横框・中框の見付け寸法及び見込み寸法は所定の寸法以上か 図2-1を参照（中框は、戸の高さが996.5mm以下の場合、設けなくてもよい）	<input type="checkbox"/>
	鏡板は見付け寸法176mm以下×見込み寸法30mm以上か	<input type="checkbox"/>
	目板・押縁は見付け寸法30mm以上×見込み6mm以上か	<input type="checkbox"/>
	雇い実の断面寸法は20mm以上×40mm以上か （雇い実の寸法がわかる写真を1枚以上提出してください。写真2-1を参照）	 <input type="checkbox"/>
	鏡板同士の接合部、鏡板と框間の接合部に雇い実を入れているか （雇い実の施工時の写真を1枚以上提出してください。写真2-2を参照）	 <input type="checkbox"/>
	部材の接合に接着剤（ボンド）を使用していないか	<input type="checkbox"/>
	框同士（縦框と横框、縦框と中框）の取付方法（ねじ、本数、くさび併用）は適切か 留付材：木ねじ（Φ3.0mm以上×25mm以上）とくさび（木材、幅15mm×厚さ3～7mm）の併用 留付本数：横框－縦框、中框－縦框の取合い部に1個／箇所	<input type="checkbox"/>
	押縁（框と鏡板）、目板（鏡板同士）の取付方法（くぎ／ねじ、本数）は適切か 押縁 留付材：木ねじ（框との留付はくぎでも可） 寸法：Φ2.2mm以上×20mm以上 留付間隔：高さ方向200mm以下、横方向176mm以下 本数：2本以上／箇所 目板 寸法：Φ2.2mm以上×20mm以上 留付間隔：高さ方向200mm以下 本数：2本以上／箇所	<input type="checkbox"/>
	節や割れがある場合、パテで処理を行ったか	<input type="checkbox"/>
	塗装材の種類は適切か 塗装剤の種類（いずれか一仕様）：なし／合成樹脂調合ペイント／クリヤラッカー／フタル酸樹脂エナメル／合成樹脂エマルジョンペイント／ウレタン樹脂ワニス／オイルステイン／木材保護塗料（べんがら、柿渋など）／なし	<input type="checkbox"/>
塗装材は塗りすぎでないか 50g/m ² 以下（有機固形分28g/m ² 以下） （塗装材の塗布量について、50g/m ² 以下であることがわかる資料又は写真を提出してください） （べんがら、柿渋、オスモは、塗布量50g/m ² 以下を満たしていれば、有機固形分28g/m ² 以内となります）	 <input type="checkbox"/>	
縦框には、ネジ締めり錠、カマ錠、気密材が取り付けられているか	<input type="checkbox"/>	

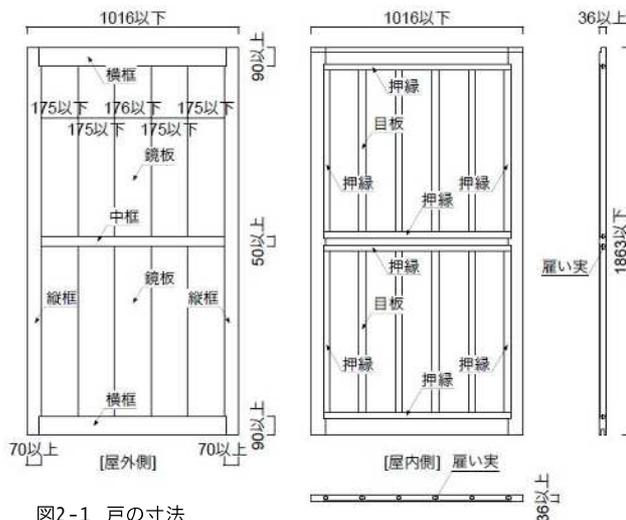


図2-1 戸の寸法



写真2-1 雇い実の断面寸法が確認できる写真



写真2-2 雇い実の施工が確認できる写真

仕様、留付方法・間隔等を満たしていることを確認した場合に、□にチェック（レ）を入れる

	チェック内容	チェック
	加熱発泡材は、例示の商品を使用しているか 種類：熱膨張材（商品名：積水化学工業フィブロック（塩化ビニル系）） 寸法：幅10mm以上×厚さ1.6mm以上	□
	加熱発泡材（上枠）の取付方法（くぎ／ねじ，ピッチ）は適切か 留付材：くぎ（φ1.25mm以上×19mm以上）／木ねじ（φ3.8mm以上×25mm以上） 留付間隔：310mm以下 留付本数：2本以上／箇所	□
	加熱発泡材（戸先，戸下部）の取付方法（ステープル，ピッチ）は適切か 留付材：ステープル（内幅12mm以上，足の長さ10mm以上） 留付間隔：200mm以下	□
	加熱発泡材は途切れずに全長にわたって留付けられているか	□
	加熱発泡材は所定位置に，所定本数が取り付けられているか 配置本数：上枠2本，戸先2本，戸下部1本 （戸下部に取りつけた加熱発泡材の写真を提出してください。図3-1，写真3-1を参照）	□



※ 2本溝の場合，中央の両戸（中戸）が省略されます。

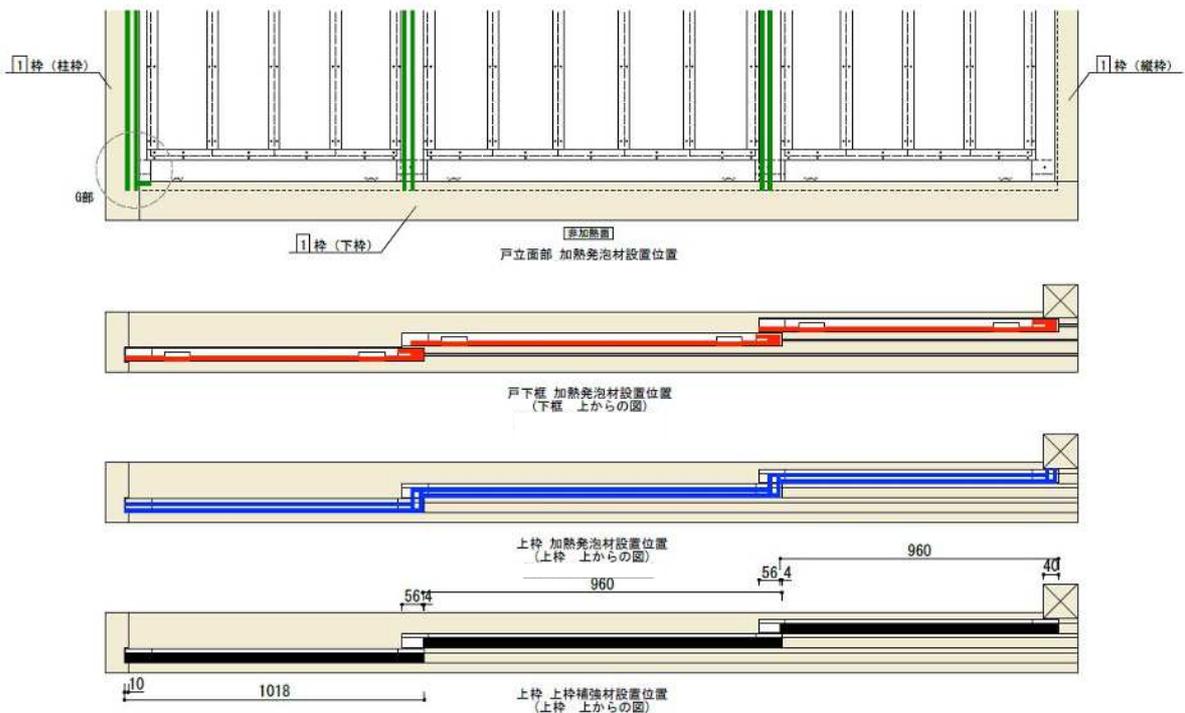


図3-1 加熱発泡材の取り付け位置及び本数



写真3-1 戸下部に取りつけた加熱発泡材が確認できる写真

3 加熱発泡材

仕様、留付方法・間隔等を満たしていることを確認した場合に、□にチェック（レ）を入れる

		チェック内容	チェック
4 副構成材	下 枠 レ ール	下枠レールは、所定の材料を使用しているか ステンレス/鉄 寸法：高さ7.5#mm以下	<input type="checkbox"/>
		下枠レールの取付方法（くぎ/ねじ、ピッチ）は適切か 留付材：くぎ（Φ1.57mm以上×L25mm以上）/木ねじ（Φ3.8mm以上×L25mm以上） 留付間隔：330mm以下	<input type="checkbox"/>
		戸がスムーズに開閉できるか	<input type="checkbox"/>
	ネ ジ 締 ま り 錠	ネジ締めり錠は、所定の材料を使用しているか 黄銅/ステンレス/鉄	<input type="checkbox"/>
		ネジ締めり錠の取付方法（ねじ本数）は適切か 留付材：木ねじ（Φ3.5mm以上×L25mm以上） 留付本数：錠2本以上、受4本以上	<input type="checkbox"/>
		ネジ締めり錠の取付用の穴の寸法は適切か 掘込寸法：錠 高さ120mm以下×幅35mm以下×深さ14.8mm以下、受 高さ45mm以下×幅23mm以下×深さ15mm以下 （掘込深さが所定の寸法以下であることがわかる写真を、錠及び受それぞれ各1枚以上提出してください）	 <input type="checkbox"/>
		ネジ締めり錠の閉鎖時に戸同士が動かないか	<input type="checkbox"/>
	カ マ 錠	カマ錠は、所定の材料を使用しているか 黄銅/ステンレス/鉄	<input type="checkbox"/>
		カマ錠の取付方法（ねじ本数）は適切か 留付材：木ねじ（Φ2.7mm以上×L16mm以上） 留付本数：錠4本以上、受2本以上	<input type="checkbox"/>
		カマ錠の取付用の穴の寸法は適切か 掘込寸法：錠 高さ58mm以下×幅30mm以下×深さ18mm以下、受 高さ60mm以下×幅20mm以下×深さ10mm以下 （掘込深さが所定の寸法以下であることがわかる写真を、錠及び受それぞれ各1枚以上提出してください）	 <input type="checkbox"/>
		カマ錠の閉鎖時に柱戸が動かないか	<input type="checkbox"/>
		カマ錠、ネジ締めり錠の閉鎖時に、全体が動かないか	<input type="checkbox"/>
	気 密 材	気密材は、例示の商品を使用しているか EPDM混和物の発泡体（商品名：日東電工EE1010P 粘着テープ付き） 寸法：幅10mm以上×厚さ10mm以上（圧縮前）	<input type="checkbox"/>
		気密材の取付方法（付属粘着テープなどによる取付）は適切か	<input type="checkbox"/>
		閉鎖時に気密材が潰れているか ※ 気密材は、戸と枠の密着性を高めて、火炎貫通を防ぐうえで重要です！	<input type="checkbox"/>
	戸 車	戸車は、所定の材料を使用しているか ステンレス/鉄	<input type="checkbox"/>
		戸車の取付方法（ねじ本数）は適切か 留付材：木ねじ（Φ3.3mm以上×L45mm以上）、留付本数：2本以上/個	<input type="checkbox"/>
		戸車の取付用の穴の寸法は適切か 掘込寸法：短辺幅14mm以下×長辺幅68mm以下×深さ28mm以下 （掘込深さが所定の寸法以下であることがわかる写真を1枚以上提出してください）	 <input type="checkbox"/>
レールと戸の隙間が空きすぎていないか（6.5mm程度以下）		<input type="checkbox"/>	
上 枠 補 強 材	上枠補強材は、所定の材料（ガルバリウム鋼板）、厚み、寸法を使用しているか 厚さ：0.35mm以上、寸法：高さ25mm以上×奥行き27mm以上	<input type="checkbox"/>	
	上枠補強材の取付方法（くぎ/ねじ、ピッチ）は適切か 留付材：くぎ（Φ1.25mm以上×L19mm以上）/木ねじ（Φ3.8mm以上×L25mm以上） 留付間隔：310mm以下 留付本数：2本以上/箇所	<input type="checkbox"/>	
	上枠補強材の上にも加熱発泡材が付いているか	<input type="checkbox"/>	

付録2

木製防火雨戸の維持管理チェックシート（三本溝・二本溝共通）

物件名：	
雨戸の設置場所：	
建築主：	記入日／記入者：
建築場所：	雨戸製作者／登録番号：

木製防火雨戸の目的・維持管理について

・「木製防火雨戸」は「雨戸」という名称ですが、「隣近所で火災があった時に、もらい火を防ぎ、建物を守る」ことを目的として開発したものです。大雨や台風の時の雨戸として、留守にする際の防犯対策としてはもちろん、万が一隣近所で火事があったときにも、雨戸を使いましょう。

・「木製防火雨戸」は常に使用することで、不具合など簡単に点検することができます。日頃から雨戸を使用するとともに、このチェックシートを用いて点検することで、雨戸の性能を維持し続けるようにしましょう。

確認した場合に、□にチェック（レ）を入れる

点検時期の目安について		チェック
※下記の不具合を見つけた場合は、当初の雨戸製作者（工務店）の方に連絡しましょう。		<input type="checkbox"/>
※年に1度程度、定期点検を行いましょ。		<input type="checkbox"/>
※台風や地震などの災害後に点検をしましょ。		<input type="checkbox"/>
維持管理のチェック内容について		チェック
全体	機能性	
	破損している箇所はありませんか	<input type="checkbox"/>
	戸はスムーズに開閉できますか（戸が動かしにくい、戸を動かす時に変な音がする等）	<input type="checkbox"/>
	鍵は上手く締められますか	<input type="checkbox"/>
	状態	
塗装は剥げたりひび割れていませんか	<input type="checkbox"/>	
その他（ ）	<input type="checkbox"/>	
枠	状態	
	枠の木材に割れや反りによる隙間はありませんか	<input type="checkbox"/>
	上枠の加熱発泡材や補強材に欠損や剥がれはありませんか	<input type="checkbox"/>
	節や割れのパテの処理ははずれていませんか	<input type="checkbox"/>
	下枠の加熱発泡材に欠損や剥がれはありませんか	<input type="checkbox"/>
	下枠のレールにゴミが溜まっていませんか	<input type="checkbox"/>
その他（ ）	<input type="checkbox"/>	
戸	状態	
	戸の木材に割れや反りによる隙間はありませんか	<input type="checkbox"/>
	目板や押縁に浮きや欠損はありませんか	<input type="checkbox"/>
	加熱発泡材や気密材（黒いテープ状のもの）に欠損や剥がれはありませんか	<input type="checkbox"/>
	節や割れのパテの処理ははずれていませんか	<input type="checkbox"/>
	鍵や戸車の金具廻りに不具合はありませんか	<input type="checkbox"/>
その他（ ）	<input type="checkbox"/>	
メモ		

付録 3

性能評価試験の記録写真



写真 1 試験前加熱面[屋外側]
試験開始前の加熱面の様子。



写真 2 試験前非加熱面[屋内側]
試験開始前の非加熱面の様子。

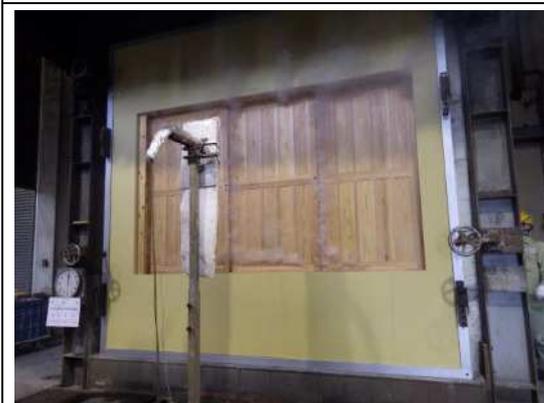


写真 3 試験開始 1 分後非加熱面
枠と戸、戸同士の間隙からの煙が見られる。



写真4 試験開始5分後非加熱面
枠と戸、戸同士の隙間に設置した加熱発泡材
が発泡し、隙間からの煙は一旦減少する。



写真5 試験開始10分後非加熱面
煙は更に減少。



写真6 試験開始15分後非加熱面
煙の噴出はほとんど見られない。



写真7 試験開始 20 分後非加熱面
火炎貫通は見られず、防火設備として、20
分間の遮炎性を確認した。



写真8 試験開始 25 分後非加熱面
戸上部からの煙が見られる。また、非加熱面
側へ凸になる反りが見られる。



写真9 試験開始 30 分後非加熱面
戸より火炎貫通を確認。脱炉。
なお、枠と戸、戸同士の隙間からの火炎貫通
は見られなかった。



写真 10 脱炉直後加熱面
脱炉の様子。

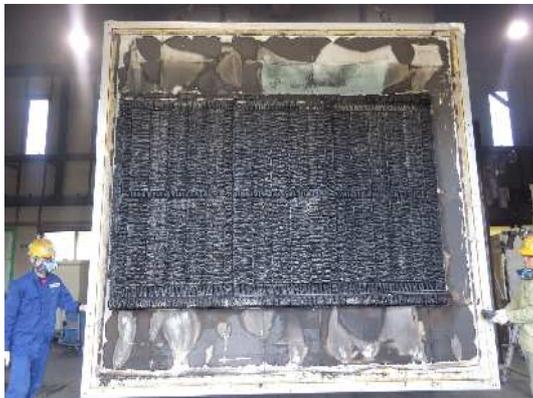


写真 11 消火後加熱面
全体が炭化している。

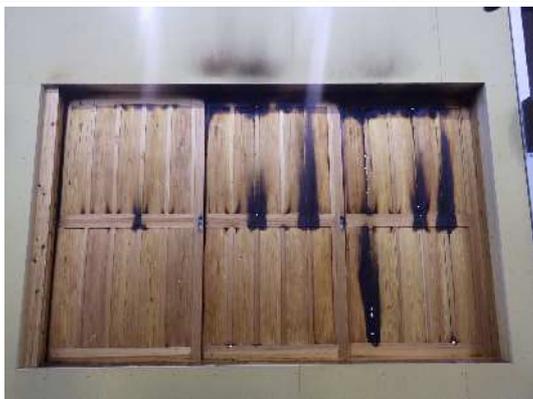


写真 12 消火後非加熱面
戸上部を中心に、部品の取り合い部に炭化が
見られ、火炎貫通した箇所では反対側が見える。

付録 4

・ 関連法令（土壁・軒裏の防火構造）等

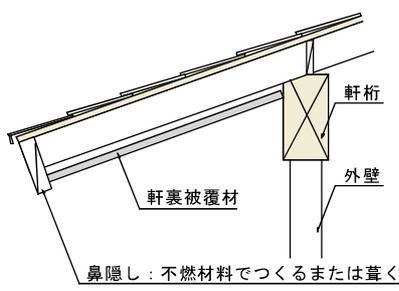
■ 防火構造外壁

平成 12 年建設省告示第 1359 号第 1

	屋外側被覆材（外壁） <small>【いずれかを選択】</small>	屋内側被覆材（内壁） <small>【いずれかを選択】</small>
防火被覆を両面に張る場合	<input type="checkbox"/> 厚さ20mm以上の鉄網モルタル塗り <input type="checkbox"/> 厚さ20mm以上の木ずり漆喰塗り <input type="checkbox"/> 木毛セメント板の上に厚さ15mm以上のモルタルまたは漆喰塗り <input type="checkbox"/> せっこうボードの上に厚さ15mm以上のモルタルまたは漆喰塗り <input type="checkbox"/> 厚さ20mm以上の土塗壁（下見板張り含む） <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上のせっこうボードの上に金属板張り <input type="checkbox"/> 厚さ25mm以上のロックウール保温板の上に金属板張り <input type="checkbox"/> 総厚25mm以上のモルタル塗りの上にタイル張り <input type="checkbox"/> 総厚25mm以上のセメント板張または瓦張の上にモルタル塗り <input type="checkbox"/> 厚さ12mm以上の硬質木片セメント板張り <input type="checkbox"/> 厚さ15mm以上の窯業系サイディング（中実品）張り <input type="checkbox"/> 厚さ18mm以上の窯業系サイディング張り（中空部を除く厚さが7mm以上）	<input type="checkbox"/> 厚さ9.5mm以上のせっこうボード張り <input type="checkbox"/> 厚さ4mm以上の合板・構造用パネル・パーティクルボード・木材張り（壁体内にグラスウールまたはロックウール厚さ75mm以上充填） <input type="checkbox"/> 厚さ30mm以上の土塗壁
土蔵・真壁造の場合	<input type="checkbox"/> 土蔵造 <input type="checkbox"/> 厚さ40mm以上の土塗真壁造（裏返し塗りあり） <input type="checkbox"/> 厚さ40mm以上の土塗真壁造（裏返し塗りなし）（柱の屋外側と土壁とのちりが15mm以下） <input type="checkbox"/> 厚さ40mm以上の土塗真壁造（裏返し塗りなし）（柱の屋外側に15mm厚以上の木材を張る） <input type="checkbox"/> 厚さ30mm以上の土塗真壁造（裏返し塗りなしでもよい）の上に厚さ12mm以上の木材張り	

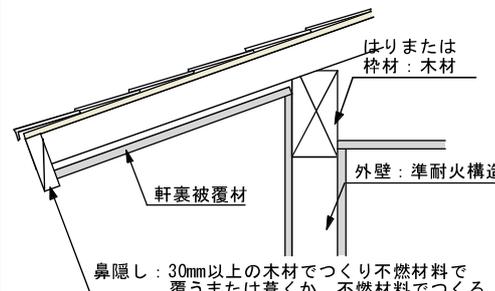
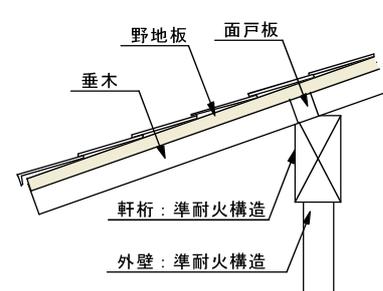
■防火構造軒裏

平成 12 年建設省告示第 1359 号第 2

軒裏被覆材 【いずれかを選択】	
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>土蔵造 <input type="checkbox"/>厚さ20mm以上の鉄網モルタル塗り <input type="checkbox"/>厚さ20mm以上の木ずり漆喰塗り <input type="checkbox"/>木毛セメント板の上に厚さ15mm以上のモルタルまたは漆喰塗り <input type="checkbox"/>せっこうボードの上に厚さ15mm以上のモルタルまたは漆喰塗り <input type="checkbox"/>厚さ20mm以上の土塗壁(下見板張り含む) <input type="checkbox"/>厚さ12mm以上のせっこうボードの上に金属板張り <input type="checkbox"/>厚さ25mm以上のロックウール保温板の上に金属板張り <input type="checkbox"/>総厚25mm以上のモルタル塗りに上にタイル張り <input type="checkbox"/>総厚25mm以上のセメント板張または瓦張の上にモルタル塗り 	 <p>軒裏被覆材</p> <p>軒桁</p> <p>外壁</p> <p>鼻隠し：不燃材料でつくるまたは葺く</p>

■準耐火構造軒裏

平成 12 年建設省告示第 1358 号第 5

	【垂木・野地板等を防火被覆する場合】 【いずれかを選択する】	【垂木・野地板等を木材現しとする場合】
45分	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>厚さ12mm以上の硬質木片セメント板張り <input type="checkbox"/>厚さ12mm以上のせっこうボードの上に金属板張り <input type="checkbox"/>木毛セメント板の上に厚さ15mm以上のモルタルまたははっくい塗り <input type="checkbox"/>せっこうボードの上に厚さ15mm以上のモルタルまたははっくい塗り <input type="checkbox"/>総厚25mm以上のモルタル塗りに上にタイル張り <input type="checkbox"/>総厚25mm以上のセメント板張または瓦張の上にモルタル塗り <input type="checkbox"/>厚さ25mm以上のロックウール保温板の上に金属板張り 	<p>【野地板】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■厚さ30mm以上の木材 <p>【垂木】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■木材 <p>【面戸板及び被覆材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■厚さ45mm以上の木材 <p>【部材の取り合い部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■野地板及びたるきと軒桁との取合い等の部分を垂木欠きを設ける等、建物内部への炎の侵入を有効に防止する
	 <p>はりまたは稜材：木材</p> <p>軒裏被覆材</p> <p>外壁：準耐火構造</p> <p>鼻隠し：30mm以上の木材でつくり不燃材料で覆うまたは葺くか、不燃材料でつくる</p>	 <p>野地板</p> <p>面戸板</p> <p>垂木</p> <p>軒桁：準耐火構造</p> <p>外壁：準耐火構造</p>

窓 口 案 内

令和 3 年 1 2 月 1 6 日現在

木製防火雨戸に関するお問合せ

木製防火雨戸の製作、設置に関する相談

木製防火雨戸の活用を検討されている場合や、製作依頼先等の相談をお受けします。

☎ 075-802-1281 京都市建築工業協同組合

木製防火雨戸製作者一覧

https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/cmsfiles/contents/0000291/291405/boukaamado_tourokubo.pdf



設計ガイドブックの内容に関するお問合せ

その他、木製防火雨戸全般、国土交通大臣の認定等に関するご質問等にお答えします。

☎ 075-222-3620 京都市建築指導課（歴史的建築物保存活用係）

<https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000291405.html>



歴史的建築物に関するその他の制度等

京町家の総合情報サイト

京町家に関する京都市の取組や、京町家に関する相談、支援制度、活用事例などを紹介した、京町家の総合情報サイトです。

☎ 075-222-3503 京都市まち再生・創造推進室（京町家保全継承担当）

<https://machiya-kyoto.jp/>



京町家なんでも相談

改修、活用、相続など、京町家の保全・継承に関する様々なご相談にお答えします。

<https://kyoto-machisen.jp/machiya/>



京町家カルテ、京町家プロフィール

●京町家カルテ

京町家を次世代へ適正に継承するため、京町家の価値をまとめた資料を発行します。

●京町家プロフィール

京町家の外観に関する情報をまとめた資料を発行します。

<https://kyoto-machisen.jp/about/detail/karte.html>



▲京町家カルテ見本



☎ 075-354-8701 京都市景観・まちづくりセンター

京都を彩る建物や庭園制度

市民の皆様が京都の財産として残したいと思う建物や庭園を、公募によりリスト化し公表しています。認定・選定された建物や庭園の修理事業等に対して、工事費用の一部を補助します。



☎ 075-222-3130 京都市文化財保護課

<https://kyoto-irodoru.com/>

景観に関する助成制度

景観重要建造物や歴史的風致形成建造物の指定を受けることで、修理・修景工事にかかる費用の一部を補助します。



☎ 075-222-3397 京都市景観政策課

<https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000281311.html>

建築基準法適用除外制度

京町家などの歴史的建築物について、建築基準法の適用を除外することで、法の下では困難であった建築行為を可能とする制度です。



☎ 075-222-3620 京都市建築指導課（歴史的建築物保存活用係）

<https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000157989.html>

京町家できること集

京町家の増改築、修繕、用途変更等に関して、適用される建築基準法の現行基準をわかりやすくまとめ、京町家の意匠・構造を守りながら「できること」を解説しています。



☎ 075-222-3616 京都市建築審査課

<https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000161706.html>

木製防火雨戸の設置、京町家等の改修に対応できる補助金

- ・ 令和5年4月現在の内容です。
- ・ 予算の執行状況や年度により、内容が変更となる場合があります。
- ・ 予算が無くなり次第、受付終了します。
- ・ 以下の2つの補助金の併用はできません。
詳しくは、各問合せ先にご確認ください。

京町家条例に基づく指定京町家改修補助金

対象

- ①指定地区内の京町家
- ②個別指定の京町家

内容

指定京町家の保全・継承に必要な改修工事にかかる費用の一部を補助します。

補助金額

- ①最大100万円（補助率1/2）
- ②最大250万円（補助率1/2）

☎ 075-222-3503

京都市まち再生・創造推進室（京町家保全継承担当）

<https://kyomachiya.city.kyoto.lg.jp/repair/#2>



道路など公共の場所から見える木製防火雨戸も対象です！！

令和5年
4月3日から
受付中！

みやこ杉木（そまぎ）普及促進事業

対象

住宅又は店舗等

内容

みやこ杉木及びみやこ杉木製品の購入費用の一部を補助します。

補助金額

住宅：最大16万円（補助率1/2）
店舗等：最大160万円（補助率1/2）

☎ 075-406-2671 京都市域産材供給協会

<https://miyakosomagi-e.net/hojo/>



木製防火雨戸も対象です！！

令和5年
4月25日から
受付中！

木製防火雨戸の設計ガイドブック

令和3年12月発行

発行：京都市都市計画局建築指導部建築指導課

住所：京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488

電話：075-222-3620

制作協力 京都府建築工業協同組合

京都市印刷物 第033177号



京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を全ての政策に生かしています。